

Hokkaido University News

# 北大時報

令和3年

# 10

No. 811 October 2021

## 特任教授 リスト・ベンジャミン 氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定





北海道大学ホームカミングデー2021をオンライン開催



第5回 定例記者会見を開催

## 全学ニュース

- 1 特任教授 リスト・ベンジャミン 氏  
2021年ノーベル化学賞受賞決定
- 7 株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント・株式会社クボタと3者連携協定の調印式を実施  
～北海道ボールパークFビレッジ 2023年開業の農園エリアに農業学習施設を設置～
- 8 新型コロナワクチン大学拠点接種が終了
- 9 「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催
- 22 第5回 定例記者会見を開催
- 23 令和3年度小島三司奨学金受給者の決定
- 23 令和3年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- 24 広域エリア 統合プレインキュベーション施設 HX〈エイチクロス〉始動  
～北海道の大学等発スタートアップ支援の中核拠点へ～
- 25 北大認定商品として新たにお漬物「まるごと道産素材」が誕生
- 25 「北海道大学 新技術説明会」を開催
- 26 サブサハラ・アフリカ地域向けにオンライン「日本留学フェア」を開催
- 27 ボゴール農業大学学生団体主催イベントに学生5名が参加
- 28 第3回日露大学協会総会に参加
- 29 アートプロジェクト「アノオンシツ」が橋の思い出を募集中  
～オンライン展示「札幌の木、北海道の椅子展 2021」も開催中～
- 30 博士人材と企業の情報交換会  
第46回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
- 31 サステナビリティ推進機構の設置を記念したキックオフセミナー「サステナビリティと北海道大学」をオンライン開催
- 32 北大フロンティア基金

## 部局ニュース

- 34 動物慰霊式を挙行
- 35 The 5th FHS International Conference（第5回保健科学研究国際シンポジウム）を開催
- 36 令和3年度 地球環境科学研究所 公開講座「環境との調和：化学を通して見える世界」が終了
- 37 人獣共通感染症国際共同研究所が国際シンポジウムをオンライン開催～第9回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議～
- 38 令和3年度北海道大学広域複合災害研究センター・読売新聞北海道支社共催防災シンポジウム「冬の北海道の広域複合災害」を開催
- 39 環境健康科学研究教育センター岸 玲子特別招へい教授が国際環境疫学会のJohn Goldsmith賞を受賞

## お知らせ

- 40 医療費通知事業の実施

## 博士学位記授与 41

## 諸会議の開催状況 50

## 学内規定 51

## 表敬訪問 53

## 人事 54

- 55 新任部局長等紹介
- 56 新任教授紹介



北大認定商品として新たにお漬物「まるごと道産素材」が誕生



サステナビリティ推進機構の設置を記念したキックオフセミナー「サステナビリティと北海道大学」をオンライン開催



令和3年度 大学院地球環境科学研究所 公開講座「環境との調和：化学を通して見える世界」の終了について



令和3年度北海道大学広域複合災害研究センター・読売新聞北海道支社共催 防災シンポジウム「冬の北海道の広域複合災害」を開催

表紙：特任教授 リスト・ベンジャミン 氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景<sup>®</sup> 跨道橋（北7条西10丁目）

# 特任教授 リスト・ベンジャミン 氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定

10月6日(水)、スウェーデン王立科学アカデミーは、2021年ノーベル化学賞をリスト・ベンジャミン教授(ドイツ マックス・プランク石炭研究所 所長)及びマクミラン・ディヴィッド教授(アメリカ プリンストン大学)に贈ることを発表しました。

リスト先生はベルリン自由大学を卒業後、1997年にフランクフルト大学にて博士号(化学)を取得されました。2018年10月の創成研究機構化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)設立時から主任研究者を務められるとともに、現在は本学の特任教授を務められています。本国のドイツでは、マックス・プランク石炭研究所において所長かつ教授として勤務されているとともに、ケルン大学教授を務められています。

受賞対象となった不斉有機触媒の開発に関する研究は、2000年のリスト先生及びマクミラン教授の発表を皮切りに、大きく飛躍した分野です。それまで一般的に不斉合成には金属触媒、あるいは生体触媒が必要だと考えられていましたが、金属を使わず、小さな有機分子そのものが触媒として働くという事実は当時、大きな驚きをもって受け入れられました。より安定・安価で環境にもやさしい有機分

子触媒は日本も含めた世界中の研究者によって更に発展し、今では医薬品などの合成にも用いられています。

今回のノーベル賞受賞決定は、本学にとって、2010年と同じくノーベル化学賞を受賞された鈴木 章ユニバーシティープロフェッサー以来、二度目の快挙です。

受賞から一夜明けた10月7日(木)10時30分からは、報道機関13社を集めて記者会見が行われました。リスト先生はドイツにいたため会見には参加されませんでした。吉見 宏理事・副学長、WPI-ICReDD拠点長の前田 理教授、リスト研究グループCo-PIの辻 信弥特任助教が列席しました。

最初に吉見理事・副学長が祝辞を述べられ、前田教授と辻特任助教が拠点の概要、受賞対象となった研究の概要やリスト先生の人物像、拠点での役割等について説明されました。その後、質疑応答が行われ、記者からはたくさんの質問が寄せられ、11時45分に終了しました。会見後には、研究施設の見学も行われ、多くの報道機関が参加しました。

同日夜には、前田教授や辻特任助教をはじめとするWPI-ICReDDのメンバーがZoomによりリスト先生とオンライン祝賀会を行いました。

## 特任教授 リスト・ベンジャミン 氏へのオンラインインタビュー

・受賞してどのようなお気持ちですか。

本当に光栄なことで、感謝してもしきれません。これほどの栄誉を一人では背負えませんし、これは私一人への賞ではありません。この栄誉を素晴らしい友人である北大ICReDDの皆さんと分かち合えて大変嬉しいです。

しばらく皆さんと十分な時間が経過していませんでしたが、今このように共に過ごせることが本当に嬉しく、光栄です。どうもありがとうございます。

・若くして大きな成果を生み出した秘訣はなんですか。

幸運や偶然も大きな要因です。博士課程で師事した先生の影響で、プロリンに関する70年代の研究について知っていましたが、世の中では忘れ去られていました。その後、スクリプス研究所で酵素の結晶構造を見た時に、その触媒メカニズムについて閃いたのですが、誰も信じてくれないだろうと思い、不安の中、誰にも言わずに実験を重ねていきました。それが今回の発見につながりました。ですから、いつも確信をもって研究をする必要はなく、むしろ不安や不確かさを大切にすることが重要だと思います。

・WPI-ICReDDから就任の依頼を受けた時に、どうして受けようと思いましたか。

先鋭的で創造性に富んだ日本の化学研究のスタイルや、ICReDD前田先生の計算化学や理論化学への独自のアプローチにとっても刺激を受けていたからです。実は、計算化学や理論化学を反応デザインに応用することについて以前は懐疑的でした。でも今は、それが化学の歴史のなかで初めて可能になる段階に来ていると感じています。その動きに参加したいと思い、ICReDDに着任することを決めました。

・実際にWPI-ICReDDで、日本で研究をしてみてどんな印象ですか。

学際性や開放性がとても良いと思います。計算化学と実験、AIを組み合わせた研究をするのにこれほど適したところはありません。

・WPI-ICReDDの特徴を活かして今後どのような研究を進めていきたいですか。

化学反応を一からデザインできるような日を夢見ています。いつか触媒を全く一からデザインして不斉合成を行うことができるようになるかもしれません。これまでは運に頼っていたところが大きいですが、予測できるようになれば素晴らしいことです。化学を根本的に変えてしまうかもしれませんが、それは新しい世界が開けることでもありますので、恐れる必要はないと思っています。

・WPI-ICReDDや北大、日本の若い研究者にメッセージはありますか。

私のメッセージはいつも同じです。それは、自分の熱意の向かう方向に従うことです。本当に好きなことをやってください。結果を求める必要はありません。結果にこだわる必要はないのです。

## 本学関係者からのメッセージ

総長 寶金 清博

本学は、文部科学省の事業「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に2018年に採択され、化学反応創成研究拠点（ICReDD）を同年10月に設立しました。

ICReDDは、第一線の研究者を世界から多数集め、優れた研究環境ときわめて高い研究水準を誇る世界から目に見える研究拠点として活動しています。

世界的なネットワークの中で研究しているICReDDにおいて、ノーベル賞受賞者が出たことは大変光栄です。

今後も、こういった研究ネットワークを活かし、世界の課題解決に向けて貢献して参ります。

化学反応創成研究拠点長 前田 理

リスト・ベンジャミン先生のノーベル化学賞ご受賞の報を受け、ただただ興奮しています。リスト先生には、我々ICReDDが掲げる計算と情報を用いて有機合成を革新するという理念に共感していただき、2018年のICReDD創設以来、主任研究者としてご参画いただいています。同僚として、そして、ICReDDの拠点長として、リスト先生のご受賞をよろこび、祝福しております。

化学反応創成研究拠点 特任助教 辻 信弥

ノーベル化学賞の受賞の一報を受け、驚くとともに非常に嬉しい気持ちで一杯です。

リスト先生は私の博士課程の指導教員でもあり、約7年ご指導頂いております。現在は北大の特任教員として、リストグループのCo-PIとして勤務しております。

有機分子触媒という分野に対する彼の多大な貢献に敬意を表するとともに、今回の受賞にあらためてお祝いの気持ちを述べさせていただきます。

## リスト・ベンジャミン特任教授の略歴等

生年月日 1968年1月11日

出身 フランクフルト, 西ドイツ (当時)

### 学 歴

1993年 ドイツ ベルリン自由大学卒業

1997年 ドイツ フランクフルト大学 博士号 (化学)

### 職 歴

1997年 アメリカ Scripps Research Institute 博士研究員

1999年 アメリカ Scripps Research Institute 助教

2003年 ドイツ マックス・プランク石炭研究所 准教授

2004年 ドイツ ケルン大学 教授

2011年 ドイツ マックス・プランク石炭研究所 教授

2012年 ドイツ マックス・プランク石炭研究所 所長

2018年 北海道大学 創成研究機構 化学反応創成拠点  
主任研究者・特任教授

### 役職等

2017年 } 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子  
2020年 } 科学研究所 外国人運営顧問

2015年 } Thieme社 “Synlett” 誌 編集主幹  
現 在 }

2011年 } Thieme社 “Synlett” 誌 地域担当編集委員  
2015年 }

### 受賞歴

2022年 [受賞決定] アメリカ化学会 Herbert C. Brown  
Award for Creative Research in Synthetic Methods

2019年 アメリカ Herbert C. Brown Lecturer (パデュー大学)

2018年 ドイツ 国立科学アカデミー・レオポルディーナ会員

2017年 Prof. U. R. Ghatak Endowment Lecture Award  
(インド科学発展協会)

2017年 Ta-shue Chou Lectureship Award (台湾中央研  
究院化学研究所)

## 研究業績概要

リスト・ベンジャミン特任教授は、不斉有機分子触媒の研究を通じて有機合成化学分野における数多くの業績をあげていますが、中でも「プロリンを用いた不斉アルドール反応」に関する研究が代表として挙げられます。先生は有機小分子が不斉触媒として働き得ることを世界に先駆けて認識し、以来一貫して小分子有機触媒を利用した触媒的不斉合成反応の開発研究を展開しています。これらに関する先生の業績は以下の三項目に要約されます。

### (1) アミン触媒を用いた不斉合成反応の開発

今回のノーベル化学賞受賞理由にもなった本研究は、主に二級アミンを触媒として用いることで、カルボニル化合物をエナミン型中間体へ誘導化して活性化し、エナンチオ選択的な炭素-炭素結合形成反応が可能になることを見出しました。今回ノーベル化学賞を同時受賞することになったマクミラン・ディヴィッド先生らの発見も同様に二級アミン触媒でしたが、こちらがイミニウム中間体を経た求電子種の活性化を駆動力としていたのとは対照的に、リスト先生の発見したプロリン触媒による不斉反応は求核種を活性化することで反応を進行させているのが特徴です。その特異な活性化様式は大きく注目され、これらの発見によりその後の不斉有機触媒の分野が拓かれたといっても過言ではありません。

### (2) キラルブレンステッド酸触媒を用いた不斉合成反応の開発

2004年に学習院大学の秋山隆彦先生及び東北大学の寺田眞浩先生らによって報告されたBINOLリン酸触媒は、その汎用性の高さから数多くのグループによって用いられ、

発展することとなりました。リスト先生はその反応性及び選択性を更に高めるため、独自に活性部位にスルホンイミドを持つDSI触媒や二量体構造をもつIDP触媒を開発し、それらを用いた不斉合成反応を数多く報告してきました。さらに最近では、より嵩高い構造と高い酸性度を併せ持つIDPi触媒を開発し、それらを用いた不斉合成反応を数多く見出しています。中でも非古典的カルボカチオン中間体を經由する不斉反応など、それまで金属触媒や生体触媒でも成しえなかった有機分子触媒にしか出来ないような反応も報告しています。

### (3) 有機ルイス酸触媒を用いた不斉合成反応の開発

不斉ルイス酸触媒は主に金属錯体を中心に数多く報告されてきましたが、その活性の高さに応じて微量の水分や生成物によって不活性化してしまうことが多く、やや多めの触媒量が必要になることが欠点でした。リスト先生は不斉対アニオン触媒 (ACDC, Asymmetric Counteranion-Directed Catalysis) の概念を提唱し、その欠点を克服することを考えました。すなわち、これまでの不斉ルイス酸触媒がカチオン性の錯体部位にキラリティーを持っていたのに対し、対アニオンにキラリティーを導入すれば、触媒が失活した場合にも再び系中で活性種が生成され、必要な触媒量が低減されることが期待されます。この戦略に基づき、実際に2018年には有機触媒としては特異なppm以下の触媒量でも反応が進行することを見出しました。またIDPiを触媒前駆体として用いることにより、不斉細見-櫻井反応や不斉Diels-Alder反応、アセトアルデヒド誘導体を用いた不斉アルドール反応など、その利点を生かした触媒的不斉合成反応を数多く報告しています。

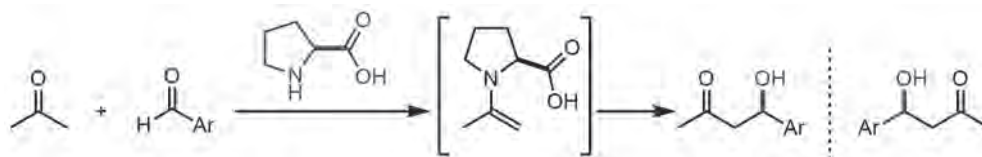


図1. プロリンによる不斉アルドール反応

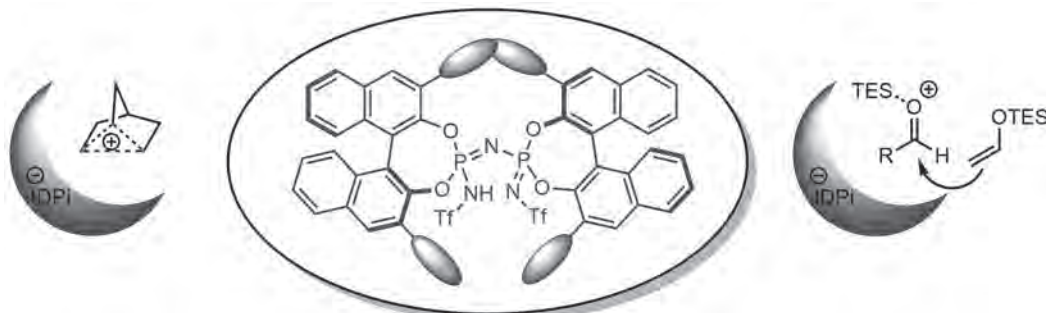


図2. IDPiをキラルブレンステッド酸触媒として用いた不斉反応 (左) 及びルイス酸触媒として用いた不斉アルドール反応 (右)



司会をする吉見理事・副学長



記者の質問に答える前田教授



記者会見で説明する前田教授と辻特任助教



記者会見には多くの報道機関が参加



研究施設の見学を終え、笑顔を見せる前田教授と辻特任助教



インタビューに応じるリスト特任教授



オンライン祝賀会の様子



リスト特任教授の話に聞き入るWPI-ICReDDのメンバー



左から、石森浩一郎副学長、前田教授、辻特任助教、伊藤 肇教授



リスト特任教授とWPI-ICReDDのメンバー



# 株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント・株式会社クボタと 3者連携協定の調印式を実施 ～北海道ボールパークFビレッジ 2023年開業の農園エリアに農業学習施設を設置～

10月9日（土）、本学は株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント、株式会社クボタとともに、2023年に開業する北海道ボールパークFビレッジ（所在地：北海道北広島市、以下「Fビレッジ」）エリア内における農業学習施設の設置について、3者連携協定を締結しました。

本協定に基づき、Fビレッジエリア内に大人から子どもまで農業について知り、学び、そして楽しむことができる農業学習施設が2023年に設置されます。

本施設では、スマート農業などの最先端農業技術を活用した農作物栽培の

観覧ができ、農業体験や教育プログラムを通じた次世代の育成、農業を中心としたコミュニティの創出や人材交流（生産者と消費者との交流、近隣農家との連携・協業等）を行うことを目指しています。広大な北海道の大地から、『農業の未来ビジョン』を発信していきます。

## 【Fビレッジの主な取り組み】

- 農業技術の展示・紹介
- 次世代の農業を担う人材の育成
- 青少年の農業への興味喚起や食育などの教育活動
- 農業を中心としたコミュニティ創

出及び人材交流活動

- 北海道の農業への貢献
- SDGsに関する活動推進

調印式では、寶金清博総長から挨拶があり、石井一英工学研究院教授（ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表）、野口 伸農学研究院 副研究院長・教授（同副代表）から、Fビレッジ農園事業への参画にあたって本学の役割が説明されました。

（総務企画部総務課）



左から、北尾裕一株式会社クボタ代表取締役社長、川村浩二株式会社北海道日本ハムファイターズ 代表取締役社長、寶金総長。画面右端に写っているのが、現在建設中のFビレッジ。



挨拶をする寶金総長



左から、石井教授、吉見 宏理事・副学長、寶金総長、野口教授

## 新型コロナワクチン大学拠点接種が終了

本学では、ワクチン接種を希望する本学並びに小樽商科大学の学生及び教職員等約18,000名を対象に、武田／モデルナ社製のワクチンを使用し、7月17日（土）から9月12日（日）までの土曜、日曜及び祝休日に第一体育館において、新型コロナワクチン大学拠点接種を実施しました。

先に実施された医療従事者向けの接種を含めると、本学に在籍する学生及び教職員の7割以上の者（学生：68.4％、教職員：82.3％）が、2回のワクチン接種を終えました。

接種にあたり、予診担当医師、接種担当の看護師及び歯科医師、充填担当の薬剤師、状態観察の検査技師などの医療従事者、事務局職員のほか、学生ボランティアや有志学生にご協力いただきました。約2ヶ月の長期間、酷暑下の接種会場において、様々な想定外の事案に対応いただき、数々の難題を克服することができました。

この場をお借りして、皆様方のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

なお、10月5日（火）、会場運営等のボランティア活動に従事した166名

の学生に対する謝礼目録贈呈式を学术交流会館にて実施しました。

贈呈式には、ボランティア活動に従事した学生のうち36名が出席し、寶金清博総長から挨拶の後、学生代表者に対し謝礼目録が授与されました。

謝礼目録が授与された後、学生代表者から、「貴重な経験を今後の学生生活に活かしたい」など、ボランティア活動を行った感想等が語られました。

（総務企画部総務課）



寶金総長ら学内関係者と学生ボランティアの集合写真

# 「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催

昨年「ホームカミングデー2020」が新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み中止となりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症防止について、本学の行動指針に基づき、関係者人数制限・手指消毒・間隔及び撮影場所の換気など十分配慮した実施の計画及び動画撮影を行い、オンラインを前提に開催に向けて準備してまいりました。

そして、この度「Be ambitious again!」をモットーに、9月24日（金）から26日（日）の3日間、2年ぶりとなる「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催しました。

10回目の開催となる今年のホームカミングデーは、同窓生や在学生の保護者など例年多くの参加者に対する安全に配慮して、オンラインによるライブストリーミング配信を主体にオンデマンド配信も組み合わせた内容にて執り行いました。

全学行事のほか、部局・同窓会が主催する様々な行事も概ねオンラインで開催されました。参加者は、ライブストリーミング配信によるZoomやWebexで旧交を確認でき、現役の学生と世代を超えた交流を持ってました。また、オンデマンド配信によるYouTubeでは好きな時間に視聴することができ、各々楽しいひとときを過ごされたと思います。

なお、次回、第11回のホームカミングデーについては、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたホームカミングデー実施方法として、対面式とオンライン方式のハイブリット開催を視野に入れて検討してまいります。このため、来年度の開催日のお知らせについては、開催日が決定次第、お知らせします。

来年度も引き続き、北海道大学ホームカミングデーをよろしく願います。

（総務企画部広報課卒業生・基金室）

## 全学行事

総務企画部広報課卒業生・基金室

### 歓迎式典・記念講演会

9月25日（土）10:00～11:45 百年記念会館大会議室 ライブ配信視聴者363名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」をオンラインによるライブストリーミング配信で行いました。

ライブ配信用のスタジオとなった百年記念会館大会議室では、寶金清博総長をはじめ、出演者が待機するなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏によるハイドン「日の出」「皇帝」の演奏で式典の幕を開けました。

司会は本学教育学部出身である総務企画部広報課特定専門職員の北村綾子

さんが務めました。

初めに寶金総長から本学の歩み、「比類なき大学」として本学の教育・社会貢献・世界課題の解決・SDGsへの取組、そして、2026年の創基150周年に向けた北大のプランと現在の取組について説明がなされ、これらへの取組については「光は北から 北から世界へ」との思いで、本学の発展に力を尽くすと結ばれ、最後に、クラーク先生への思いとホームカミングデーの今後の可能性について説明されました。

次に、杉江和男校友会エルム会長からは、校友会エルムの活動紹介があり、大学を取り巻く社会情勢について調査統計を基に様々な角度から分析され、校友会エルムの存在意義と活動の方向性を示すとともに、本学へのご支援とご協力を呼びかけられました。

ご来賓の鈴木直道北海道知事は、ホームカミングデーの開催を祝福するとともに、道と本学の包括連携の締結、本学との連携協働における取組等について説明されました。



本学の歩みについて報告する寶金総長



歓迎の挨拶を述べる杉江会長

また、昨年10月に寶金総長のもと、新体制が発足したことから、本学の理事、監事及びホームカミングデー担当の副学長の紹介も行われました。

続いて、農学研究院の野口 伸教授による記念講演会では、「これからのスマート農業～新しい地域社会の創生～」と題し、日本農業の現状に照らした農業のIT・ロボット化を専門とするスマート農業の特徴及びメリット、

未来貢献まで詳しく研究内容を説明されました。

その後、「学生による活動報告」と題し、新渡戸カレッジ生、新渡戸スクール修了生、北大公認LGBTQ+サークル「虹の集い」による活動報告がありました。

最後は、「都ぞ弥生」の弦楽四重奏に乗せての特別動画で締め括りました。本動画は大学文書館所蔵の懐かし

い写真と郷愁を誘うメロディーから始まり、途中から曲調がアップテンポになると、札幌キャンパスの四季折々の風景が映し出されます。本学の明るい未来を象徴するようなフィナーレとなりました。

視聴者の皆様には、コロナ禍にも負けない本学の姿を感じて頂けたことと思います。



理事・監事及びホームカミングデー担当副学長の紹介の様子



スマート農業について講演する野口教授

## 部局・同窓会主催行事

アドミッションセンター（北大キャンパスビジットプロジェクト）

## キャンパスツアー — 現役北大生とめぐるキャンパス今昔 —

9月25日（土）及び26日（日）①13:00～13:50（理・工・農 卒業生向け）②13:50～14:40（医・歯・薬・獣医 卒業生向け）  
③14:40～15:30（文系学部 卒業生向け） オンライン（Zoom） 参加者86名

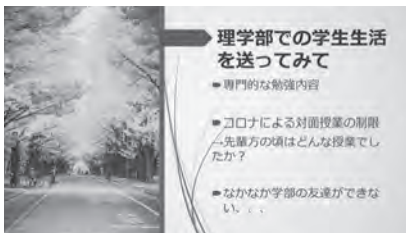
オンラインにて、スライドを用いたキャンパスツアーを実施しました。卒業生向けに「理・工・農学部」、「医・歯・薬・獣医学部」、「文系学部」の3コース計6回ツアーを実施し、2日間で国内外の78名の方にご参加いただきました。

ツアーでは、学生が各コース内の学部や施設の現在の様子などをスライドにて紹介し、参加者に当時の構内や学生生活の様子について質問しながら進行了しました。現在の本学の様子につい

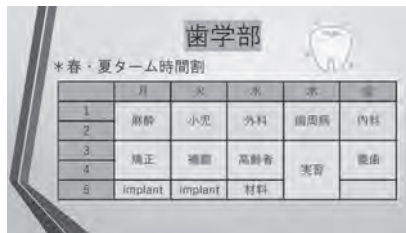
て参加者からの質問に答えながらも、学生自身も数十年前の本学の姿、歴史について参加者から学ぶことができ、共に新たな本学の一面を知る貴重な機会となりました。

ツアー参加者の方々からは、学生時代を懐かしむ声や、「遠方に住んでいるためこれまではホームカミングデーに参加できなかったが、オンラインになり、参加できてよかったです」、「何かテーマを決めて、学生と社会人の対話という企画なども面白いと思

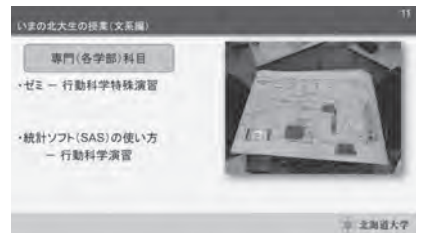
ます」などの感想が寄せられました。北大キャンパスビジットプロジェクトでは、例年、年に数回、一般市民向けのキャンパスツアーを行っていましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動を休止しておりました。今年度は活動を再開し、8月にオンラインキャンパスツアーを実施しました。今秋も実施する予定です。今回ご参加いただいた方々からお伺いしたお話も参考にし、より良いものにしていきたいと思



理・工・農学部コース：スタッフが現在学んでいる内容やコロナ禍における学生生活等について紹介



医・歯・薬・獣医学部コース：スタッフの実際の時間割等を見ながら、各学部での学び等について紹介



文系学部コース：スタッフが所属している実際のゼミの様子の画像や、キャンパスツアーの活動を始めたきっかけ等について紹介

## 総務企画部広報課 卒業生・基金室

## オンライン相続セミナー「円滑な相続に向けて」

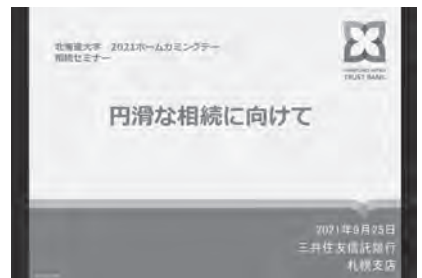
9月25日（土）14:00～15:00 オンライン配信 [https://www.hokudai.ac.jp/home2021/gakubu/kikin\\_sec/index.html](https://www.hokudai.ac.jp/home2021/gakubu/kikin_sec/index.html) 参加者49名

総務企画部広報課卒業生・基金室主催、株式会社三井住友信託銀行札幌支店共催で、相続セミナーを開催いたしました。

「円滑な相続に向けて」と題しまして、本学理学部のOBで、三井住友信託銀行 札幌支店 財務コンサルタントの山田英樹氏を講師にお招きし、遺産相続の際に起こりうる出来事や心情的移り変わりを読み解きながら、講師の実体験に基づくお話など、円滑な相続の実現へ向けた丁寧な解説をいただきました。



山田氏による講演の様子



後日視聴者へ送付した講演資料

ほっかいどう同窓会

オンライン講演会「道内経済の持続的発展に向けて」

講師：真弓明彦氏（北海道経済連合会長，北海道電力株式会社会長，ほっかいどう同窓会副会長）

9月13日録画，9月26日午前0時公開 録画：クラーク会館大集会室 YouTubeによるオンデマンド配信  
URL: <https://youtu.be/T6SyN3-YAKY> 参加者13名

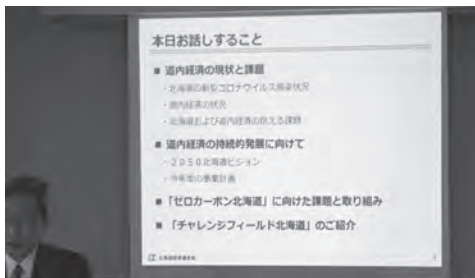
コロナウイルス感染拡大防止のため，対面での行事の代わりとして，オンライン講演会を開催しました。「道内経済の持続的発展に向けて」という講演題目で，北海道経済連合会長の真弓明彦氏に講演をしていただきました。講演会は，校友会エルムとの共催

により，9月13日（月）にクラーク会館において同窓会役員及び校友会エルム職員参加の下開催され，その様子を録画しました。

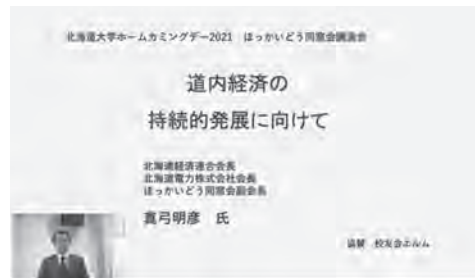
講演内容を編集後，YouTubeのほっかいどう同窓会チャンネルにアップロードし，9月26日（日）に公開しま

した。

なお，少人数の開催の他，講演会場であるクラーク会館大集会室において窓の開放，ロスナイ換気の実施，聴衆者の間隔確保，シールド使用等，新型コロナウイルス感染予防処置を施した上で，講演会を実施しました。



講演風景



動画画像

一般社団法人恵迪寮同窓会

文化講演と寮歌の集い

その1 文化講演会

9月25日（土）14:00～15:30 オンライン 参加者63名

恵迪寮同窓会は，北大ホームカミングデーに2013年から参加し，北大・恵迪寮の精神と寮歌の継承を目的に「文化講演と寮歌の集い」を行っています。

今年は，同窓会理事の高井宗宏氏から「恵迪寮と寮歌」と題しご講演をいただきました。高井先生は元北大農学研究科教授として長年，農業機械学の研究・教育に携わる傍ら，恵迪寮同窓会の設立，北大及び恵迪寮の資料の保全，恵迪寮寮歌の研究に取り組まれてきました。

昭和58年恵迪寮の閉寮に際し，旧寮舎を払い下げ北海道開拓の村で本学由来の唯一の建物となる恵迪寮舎の移築，クラーク肖像画をはじめ諸学長扁額の維持保全などにご尽力されました。

明治40年から新制大学寮になってま

で寮歌を制定し歌い続けているのはおそらく北大恵迪寮のみであり，その間，寮歌は時代世代による歌い方の違いや北海道大学交響楽団川越守編曲譜など編曲修正されてきた事実もあります。日活映画「風速40米」で北大生役を演じた石原裕次郎が歌う都ぞ弥生の録音音声も披露されました。寮歌集バックナンバーの収集・解説を通して，作曲者の入れ換え問題，口伝・正調問

題，著作権はどこにあるかなどの多くの課題を提起され対応策を提案されました。

札幌農学校寄宿舎を引き継ぐ恵迪文化を未来へ継承すべく恵迪寮名称の維持と寮歌制定の継承にこだわり同窓会の設立に奔走された先達の言は重く，われわれ後輩に諸課題の解決と正しい寮歌の継承を求める内容でした。



「恵迪寮と寮歌」をテーマに講演中の高井宗宏先生



会場から講演を全国へ配信

その2 寮歌の集い

9月25日(土) 16:00~17:30 オンライン 参加者63名

「寮歌の集い」は、北海道シジシーをメイン会場として、全国の同窓生がオンラインで参加し、予定通り16時に開会しました。

北海道恵迪寮同窓会の内藤春彦会長の開会挨拶では、オリンピックのアントワープ大会の水泳代表である内田正練氏が恵迪寮の先輩であり、寮歌「藻岩の緑」を体現する生き方をされたことが紹介されました。

「寮歌高唱」の場面では、オンラインのため参加者全員で歌うことはなかなか難しく、やむなくメイン会場から

寮歌の音源を流し、参加者は各自のマイクをミュートにして歌うという形式で行いました。

テーマとして「その時、私たちは寮にいた。」ということ掲げ、第2部の特別企画を考えました。今回参加された方々は昭和23年入寮の大先輩から現役の寮生までの63名であり、皆さんがそれぞれの時代に寮生時代を過ごされたことを踏まえてのテーマです。

「参加者の入寮年の寮歌から(4曲を取り上げた)」「最新寮歌の紹介(寮歌普及委員会と作歌者の2名からの一

言とともに紹介)」「寮史が語る感染症との闘いから(鹿田幸年君による会誌「恵迪」の内容を紹介し、2曲を歌った)」「北大応援吹奏団の紹介(コロナ禍の制約の中で参加できる形式でのプレゼン)」。

第1部・第3部は、スタンダードナンバーとして8曲を歌いました。

最後は、大谷文昭寮歌部長の発声で「都ぞ弥生」を高らかに歌いました。

千川浩治副会長の閉会の挨拶で終了したのは、定刻通りでした。



寮歌の高唱(メイン会場)



オンラインでの参加

大学文書館

オンライン展示「写真でたどる北大キャンパスの移り変わり 1940's-1960's」

9月24日(金) 9:30から公開開始 150年史編集室ホームページ 参加者26名

大学文書館では、150年史編集室ホームページにおいて、オンライン展示「写真でたどる北大キャンパスの移り変わり 1940's-1960's」を9月24日(金)より公開しました。

本展示は、大学文書館所蔵の大学沿

革資料(写真・平面図)でたどるスライドショー展示です。1940年代、1950年代、1960年代、札幌キャンパスの風景について、あわせて、1935年に北海道帝国大学から函館高等水産学校として独立し、戦後1949年に改めて新制北

海道大学の学部へと改組した水産学部、その所在地である函館キャンパスの変遷について、それぞれの時代を映し出すスライドショーを計4本制作し、公開しました。



1940年代の札幌キャンパスから(中央講堂)



1950年代の函館キャンパスから(水産学部本館)



1960年代の札幌キャンパスから(工学部)

農学院・農学研究院・農学部

## 令和3年度 市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」

9月24日（金）～25日（土） オンデマンド配信 参加者89名

本特別講演会は、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきたものであり123年の歴史があります。平成9年以来、市民公開・農学特別講演会として、広く一般市民の方々に公開しています。本年度は、農学院・農学研究院・農学部、札幌農林学会、及び札幌農学同窓会による主催、北方生物圏フィールド科学センター共催で、2日間にわたり終日オンデマンドで開催しました。

西邑研究院長による開会挨拶の後、農学研究院の小林泰男教授から「地球

温暖化と畜産：「乳肉食やめる？」それとも「科学に期待する？」と題する講演がありました。地球温暖化の現状について触れた後、家畜の温暖化ガスの排出源としての現状を示し、家畜の有益な点、また不利益である点についての詳しい解説と、抱える問題を打破するために実用化された例をもって科学的な解決方法を紹介する身近で大変興味深い内容の講演でした。

続いて、農学研究院の秋元信一教授から「不思議な生き物アブラムシの謎にせまる」と題する講演を行いました。講演の第一部ではアブラムシの生

殖の特異性の観点からどのような生き物なのかの解説があり、また第二部ではアブラムシが集団の中で他者認識を行う特性について触れ、将来的にこの特性を活かした応用的な研究への発展が示唆されるもので、アブラムシのユニークな生態が伝わり、好奇心を刺激する内容の講演でした。

オンデマンドで行われた講演会は同窓生以外に一般市民の皆様にも多数お申込みいただき、例年とほぼ変わらない人数のご参加があり、大変盛会となりました。



西邑先生のご挨拶



小林泰男先生のご講演



秋元信一先生のご講演

### 環境科学院

## 修了生による講演会（オンライン）

9月24日（金）15:00～16:30 オンライン（Webex） 参加者47名

今年度の環境科学院ホームカミングデーは、修了生をお招きして在学生へ進学・就職活動に向けての経験やアドバイスを講演いただくという「修了生による講演会」を、初のオンラインで開催しました。

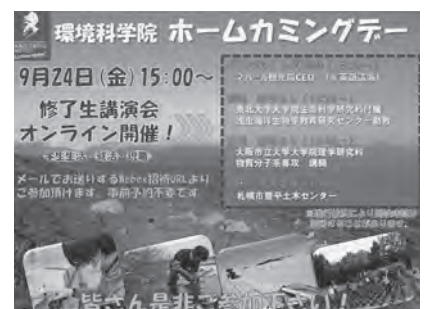
講演者の1名、ネパール観光局CEOのダナンジャイ・レグミさんはネパール在住で、まさにオンラインでなければ叶わなかった講演でした。国内からは、東北大学の岩崎藍子助教、大阪市立大学の西川慶祐講師、札幌市職員の小田正人氏よりご講演いただきました。講演者の皆様より、紆余曲折しな

がら過ごされた在学時の経験や、現職の内容とやりがい、また、就職活動時の経験や、メンタル面も含めた在学生へのアドバイスを4名それぞれの視点でいただき、大変ためになる講演でした。

今回の講演会はオンライン開催という初めての試みでしたが、遠方にお住まいの本学院元教員や修了生、また、学部生のご参加もあり、むしろ来年度以降もオンライン、またはハイブリッド形式も良いのではないかと考えさせられた、主催者側にも有意義なオンライン講演会となりました。



4名の講演者の皆さん



ホームカミングデーポスター



文学部・教育学部・法学部・経済学部

## 公開講座「コロナ禍を考える」

9月24日（金）14:00～16:40 オンライン開催（YouTube配信） 参加者70名

文系4部局合同企画として、同窓生・教職員・学生・市民を対象とした公開シンポジウム（オンライン）を開催しました。今年は、昨年度開催を見送った教育学部と、今年度開催部局の文学部による合同企画とし、コロナ禍の中オンライン（YouTube配信）で開催し、視聴者は約70名でした。

なお、最後に視聴者からの質問に答え、有意義なシンポジウムとなりました。



司会を務めた藤田健文学研究院長（左）と宮崎隆志教育学研究院長（右）



講師の文学研究院・教育学研究院の先生方（感染対策を施した文系409会議室で実施）

講師 加藤弘通先生（教育学研究院准教授）、篠原岳司先生（教育学研究院 准教授）

司会 宮崎隆志先生（教育学研究院長）

講師 池田 透先生（文学研究院 教授）、竹内修一先生（文学研究院 教授）

司会 藤田 健先生（文学研究院長）



シンポジウムは、早岡英介CoSTEP客員教授の技術協力を得、文学研究院の教員・研究推進室・文学事務部職員のもとYouTubeにて配信



シンポジウムはYouTubeにて配信（講師：教育学研究院 篠原准教授）

## 北大法学部同窓会

## 北大法学部同窓会2021年度定時総会

9月24日（金）17:00～17:35 ホテルマイステイズ札幌アспен 会議室エルム 参加者6名

佐々木亮子同窓会長の開会挨拶後、次の議案について審議し、全会一致で承認されました。

- 1 2020年度事業報告書（案）、同収支決算報告書（案）
- 2 2021年度事業報告（案）、同収支予算（案）
- 3 役員の一部改選（案）

また、席上、次の事項について、報告がなされました。

- 1 2016年版の更新版となる2021年北大法学部同窓会会員名簿を、9月24日の本日発行したこと。
- 2 2021年度卒業祝賀会において授与を予定している法学部同窓会会長表彰等表彰制度の運営等について

- 3 当初9月24日の本日開催予定であった法学部同窓会主催講演会及び会員懇親会については、コロナ感染再拡大により北海道にも8月27日から緊急事態宣言が施行されることを踏まえ中止する決定をしたこと。



開会挨拶をする佐々木亮子同窓会長・議案審議をする出席会員

経済学部同窓会

総会

9月25日(土) ONLINE 参加者7名

経済学部同窓会2021年度総会が、文系4部局合同シンポジウム終了後、オンラインで開催された。

出席者は7名とやや少なめであった

が、昨年度の事業報告、決算報告、来年度の事業計画、規約の変更、役員を選任などが審議され、了承された。

その後、上野昌美会長と岩本栄一副

会長から同窓会の今後についてお話があり、1時間弱で会は終了した。



経済学部同窓会2021年度総会の様子

理学研究院・理学院・理学部

理学部ホームカミングデー

9月25日(土) 13:30~15:30 Zoomによるオンライン開催 参加者73名

今年度の理学部ホームカミングデーは、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑みZoomによるオンライン形式で開催しました。

当日は、網塚 浩理学部長と見延庄士郎理学部同窓会理事長からの挨拶を皮切りに、各学科から最新の研究活動等について近況報告を行いました。

続いて、2030年に創立100周年を迎える理学部の記念企画として「第1回理学部創立100周年カウントダウン講演会」を開催し、理学部地球惑星科学科OBであるグーグル・クラウド・ジャパンパートナーエンジニアリング技術本部長の坂井俊介氏を講師に迎え「グローバルIT企業のカルチャーと

私のキャリア形成」と題し、学生時代からこれまでの遍歴や時代の最先端を走る企業理念等について講演いただきました。講演後の質疑応答では予定時刻を超える程の活発な質問が寄せられるなど盛況の内に終了しました。



網塚理学部長による近況報告



各学科からの近況報告



坂井氏講演風景

大学院保健科学研究院

大学院保健科学研究院ホームカミングデー

9月25日（土）13:30～17:00 WEB開催（Zoomによるオンライン配信） 参加者60名

今年度はWeb開催となり、総勢60名の方々にご参加頂きました。

伊達広行研究院長からの挨拶，オンデマンドによる分野紹介，卒業生による講演会，医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会総会が行われました。

講演会では、藤澤真一氏（北海道大学病院 検査・輸血部 副臨床検査技師長）に、「常識にとらわれるな！～だ液検査へのチャレンジ～」と題し、新型コロナウイルス感染症診断のためのPCR検査の材料は鼻や喉から採取するという常識に囚われず、より安全で簡単に採取できるだ液を材料とすることに挑戦したことから、検査体制の確立、そして、入院患者さん全員に対してだ液PCR検査を実施し、患者さんが安心して医療を受けられる体制を整えるに至った経緯を大変わかりやすく講演頂きました。

続いて、渦端純也氏（日本メディカルICT学会 代表理事/北海道大学病院

医療技術部 放射線部門）に、「仕事と研究が嫌いな放射線技師が学会を設立しちゃった話」と題し、放射線技師として活動する傍ら、2020年に自分の目指すべき所を熟慮した末に設立した日本メディカルICT学会や、診療放射線技師の情報交換オンラインコミュニティ「ラジエーションサロン」の立ち上げなど、SNS等を駆使したコミュニティで医療従事者技術の向上、患者さんの利益に繋がる新しい未来づくりを目指すという斬新な切り口で講演頂きました。

初のオンライン開催でしたが、盛況の内に終えることができました。



伊達研究院長によるご挨拶



藤澤真一氏と渦端純也氏による講演の様子



参加者の様子

工学研究院・工学院・工学部

北工会サークル展示

9月24日（金）～25日（土）終日開催 工学部ホームカミングデー特設サイト （自由観覧のため、集計しておりません。）

工学部ホームカミングデー特設サイトにおいて、北工会（工学部の教職員・学生等の親睦団体）の公認サークルによる作品（書道、写真）を展示しました。



サークル展示の様子

## 同窓生向け講演会

9月25日(土) 13:30~15:00 オンライン開催 (Zoomミーティング) 参加者47名

ホームカミングデー用サイトから入室できるZoomミーティングルームによるオンライン配信にて、工学部の同窓生に向け、講演会を行いました。

はじめに、瀬戸口剛 工学研究院長・工学院院长・工学部長が歓迎の挨拶を述べた後、工学研究院及び工学部の現況報告及び講演者の紹介を行い、引き続

き、同窓生であるインターステラテクノロジズ株式会社 金井竜一朗氏から「観測ロケット「MOMO」の信頼性向上のための改良開発」をテーマに講演が行われました。

オンライン配信であったことから遠方の同窓生等の参加もあり、質疑応答も積極的に行われ、大変好評でした。



オンライン講演会の様子

## 歯学研究院・歯学院・歯学部が新しくなりました！～歯学教育の現状(コロナ禍を含めて)～

9月25日(土) 13:30~15:00 オンライン 参加者14名

歯学研究院・歯学院・歯学部では、「歯学研究院・歯学院・歯学部が新しくなりました！～歯学教育の現状(コロナ禍を含めて)～」と題し、本研究院及び北海道大学病院歯科診療センター所属の教員による最新の研究及び臨床についての講演会、改修工事の完了

した本研究院校舎の動画による紹介を企画しました。

オンラインで開催された講演会では、初めに八若保孝研究院長・学院院长・学部長が歓迎の挨拶を述べた後、歯学研究院等の現況報告を行いました。

引き続き、本研究院等所属の各分野の教員が、歯科医療及び研究の最新トピックスについて、研究院長から改修工事の完了した本研究院校舎の動画による紹介及びコロナ禍での歯学教育の現状についての報告を行い、参加者は熱心に聞き入っておりました。



研究院長による挨拶



各分野からの研究及び臨床報告の様子

情報科学研究所・情報科学院

北楡会・北海道大学情報系交流会（母校交流会）

9月24日（金）13:30～16:30 オンライン（ZOOM） 参加者62名

情報科学院の前身となる情報科学研究科並びに電気・電子・情報・生体工学系の各専攻・学科の同窓生で組織される北楡会と、情報科学院の学生・教員との交流会を、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで実施しました。プログラムは右のとおりです。

長谷山美紀学院長並びに伊藤明男北楡会会長からの挨拶に続き、情報科学院を構成する5コースに在籍する学生からの研究発表を行いました。同窓生の皆様からは活発な質問と学生への激

励の言葉をいただきました。

学生による研究発表に続き、北楡会顧問の松谷寛様より、「オリイ研究所の挑戦 ～孤独を解消する～」のタイトルでご講演いただきました。意見交換会では伊藤北楡会会長より学生の研究発表に対する講評をいただいた後、今回のオンライン実施の試みについてや、来年度の実施についての意見交換を行いました。オンラインではコミュニケーションに制限はあるものの、オンラインであるがゆえに例年より大幅に同窓生の参加者が増えたことへのご

指摘があり、来年度以降の開催形態の参考とすることにしました。

【プログラム】

- ・開会挨拶  
情報科学院長 長谷山美紀  
北楡会会長 伊藤明男
- ・研究発表会 学生5名
- ・『オリイ研究所の挑戦 ～孤独を解消する～』  
(株)オリイ研究所 松谷 寛
- ・意見交換会



伊藤明男 北楡会会長の挨拶



在校生による研究発表



松谷寛様の講演

医学研究院・医学院・医学部

北海道大学医学部ホームカミングデー フラテ祭2021

9月25日（土）13:00～15:30 Zoomによるオンライン開催（ライブ配信） 参加者150名

医学部では、同窓生をはじめとする関係者の皆様方との親睦を更に深める目的で「フラテ祭」を開催しており、14回目の今年度はオンラインでの開催となりました。

田中伸哉フラテ祭実行委員長が歓迎の挨拶を述べた後、久住一郎医学部同窓会副会長からご挨拶をいただきました。引き続き、畠山鎮次医学研究院長・医学院長・医学部長、秋田弘俊北海道大学病院長による講演が行われた後、医学部公認団体4団体（東洋医学研究会、IFMSA北大、フラテ編集部、アンサンブル・フラテ）による活動発表が行われ、医学部の現状を発信しました。

続いて、学外でご活躍されている同

窓生により特別講演が行われました。長谷川秀樹国立感染症研究所インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター長から「COVID-19とワクチン開発」と題し、COVID-19のワクチンの種類や開発状況等についての講演が行われ、公文和子ケニア「シロアムの園」代表から「SDGs時代に医者は何をする

のかーケニアの療育の現場から」と題し、ケニアの医療状況やシロアムの園での子供たちとの関わり等についての講演が行われました。

初めてのオンラインにより開催したフラテ祭は、遠隔地からのお二方の貴重な講演により、盛会のうちに終了いたしました。



講演する長谷川氏



講演する公文氏

## ホームカミングデー@IMCTS 修了生meet在學生2021

9月25日(土) 14:00~18:00 オンライン開催 参加者66名

オンライン開催の利点を活かし、日本及び世界各地で活躍する在學生・修了生たちをZoomで繋ぎ、それぞれの活動や生活、各地の状況について共有するとともに、参加者との質疑応答によって親睦を深めることができました。

報告者は6名で、国内は香川県丸亀、福岡県北九州、北海道帯広から、海外は中国北京、台湾高雄、マレーシアアクアラルンプルから現地の映像を交えて報告がありました。

報告内容は多岐に渡り、瀬戸内海の離島の旅館経営、中国国際放送局の海外向け番組制作、台湾での海外オーダーメイドグループ旅行のコーディネートを行う旅行代理店の起業、マレーシアの大学における日本語教育、九州での地域創生に関する大学での教育活

動、電力供給の日本全体の状況と北海道の電力事業の特殊事情及び地方支社の様子についてと、本学院の専門性を活かして各地で活躍の様子とともに、コロナ禍のなかでどのように暮らしているかが伝えられました。時間帯により入れ替わりがあったものの、延べ人数で60名を超える修了生、在學生、元教員等の参加者の間で、多様な

視点から極めて活発かつ充実した議論が展開されました。

当初の予定を30分超過企画行事を終了した後、ブレイクアウトルームを使っていくつかのグループに分かれ、希望者による懇親会が1時間ほど開催されました。各グループ7名前後が和やかな雰囲気の中に近況を伝え合い、旧交を温めました。



国際広報メディア・観光学院ホームカミングデー集合写真

### 獣医学院・獣医学研究院・獣医学部

## 獣医学部同窓会（同窓会総会，同窓生と在学生の交流フォーラム）

9月25日(土) オンライン・ライブストリーミング配信(Webex Meetings) 獣医学部講義棟会議室(事務局) 参加者103名

令和3年度獣医学部同窓会通常総会を、13時よりWebex Meetingsを用いたオンライン・ライブストリーミング配信にて開催しました。総会に先立ち、逝去会員に対して黙とうを捧げました。滝口満喜会長(昭和62年卒)の挨拶に引き続き、議長に伊藤茂男氏(昭和48年卒)、副議長に細谷謙次氏(平成15年卒)、議事録署名人に青島圭佑氏(平成23年卒)が指名され、各議案が審議され、評議員が選出されました。

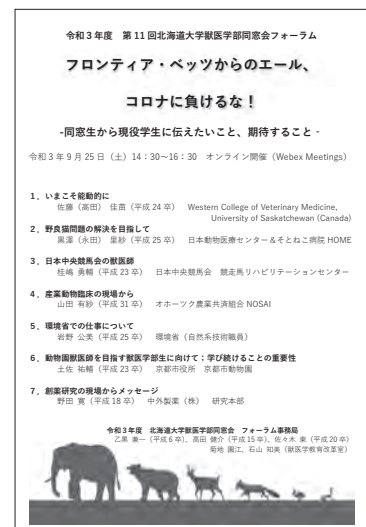
通常総会に引き続き開催された評議員会において、理事が選出されました。その後の理事会において、鷲野弘明氏(昭和51年卒)が副会長に再任されました。

14時30分より北海道大学獣医学部同窓会フォーラムをオンライン開催しました。今年は「フロンティアベッツからのエール、コロナに負けるな! -同窓生から現役学生に伝えたいこと、期待すること-」と題し、様々な分野で活躍する同窓生から現役学生に向け

て、仕事の内容や職場の様子などを紹介するとともに、これからの進路を模索する学生に叱咤激励の言葉をかけていただきました。同窓生と在學生で活発な質疑応答が行われ、有意義な交流会となりました。



フォーラム演者との記念撮影



フォーラムポスター

水産学部/水産科学院/水産科学研究院, 北水同窓会

## 水産学部卒業生・在校生のつどい（元水産庁長官 長谷成人 氏の講演会 「一水産学徒の行政遍歴～水産改革と浜の未来～」, 14:00～15:30) 北水同窓会100周年記念総会準備状況報告・検討会（15:30～16:00）

9月25日（土） オンライン開催 参加者46名

北水同窓会の高津哲也幹事長による開会宣言、木村暢夫学部長による学部の近況とフロンティア基金のお願い、北水同窓会の横山清会長による挨拶の後、本学部卒業生の長谷成人氏（元水産庁長官、（一財）東京水産振興会理事）に「一水産学徒の行政遍歴～水産改革と浜の未来～」と題してご講演いただきました。

講演内容は、幼少時帰省先の長崎県五島列島での海と身近な生活が、その後北大水産学部を目指すきっかけとなったこと、学生時代に始めたサッカーを現在も続けていることや、水産庁での資源管理行政での経験、北太平洋潮河性魚類委員会勤務中のバンクーバー

滞在経験、出向先の宮城県漁政課長としての漁業者との密接な交流の構築と漁業調整の成果、マサバ・クロマグロ・サンマをめぐるロシア・中国・韓国等との漁業交渉過程、突然の水産庁長官指名など、水産行政の最前線で活躍された貴重な体験を伺うことができました。また、「漁業調整は総合格闘技」という言葉に、幅広い職務内容と困難さを実感することができました。また近年の、水産庁の積極的な水産資源管理方策の背景を知ることができました。質疑応答では、参加した学生からも大胆な提言などがあり、活発な議論ができました。

「北水同窓会100周年記念総会準備

状況報告・検討会」では、本学練習船うしお丸代船の建造状況や、令和4年7月末開催予定の100周年記念総会に向けての要望を聞き取ることができました。



開催挨拶をする木村暢夫水産科学研究院長

## 第5回 定例記者会見を開催

9月16日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」をオンライン形式で開催しました。吉見 宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと、高等

教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門の川本思心部門長と朴 炫貞特任講師、北方生物圏フィールド科学センターの佐藤冬樹センター長と林 忠一企画調整室長が発表し、北海

道教育庁記者クラブ加盟社等から4名の参加がありました。発表・報告内容は以下の通りです。

（総務企画部広報課）

### 発表事項（発表者）

- ・アートを通じた自然との付き合い方、「アノオンシツ」プロジェクト  
高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション教育研究部門 部門長 川本思心  
特任講師 朴 炫貞  
北方生物圏フィールド科学センター センター長 佐藤冬樹  
企画調整室長 林 忠一



定例記者会見配信会場



発表を行う朴特任講師



当日の発表者と吉見理事・副学長（左から川本部門長、朴特任講師、佐藤センター長、林室長、吉見理事・副学長）



Zoomを用いた発表の様子



## 令和3年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、令和3年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与することを目的として創設された、返還義務

のない給付型の奨学金です。

今年度は、工学院から1名、生命科学院から2名の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった3名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、年額60万円が給付されます。

### 【令和3年度受給者】

工学院 山石 直也  
生命科学院 齋藤 遥  
生命科学院 木下 祥一

(学務部学生支援課)

## 令和3年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定

この度、令和3年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—の第1学期被表彰者4名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設されたもので、今回を含め72名の学生に授与されています。賞の内

容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者には、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

### 【令和3年度第1学期被表彰者】

21組 長谷川斐月  
29組 酒井 泰人  
29組 兼田 大生  
31組 京野 航大

(学務部学生支援課)

## 広域エリア 統合プレインキュベーション施設 HX〈エイチクロス〉始動 ～北海道の大学等発スタートアップ支援の中核拠点へ～

産学・地域協働推進機構は2021年9月、フード&メディカルイノベーション国際拠点内に大学等の研究機関から生まれるスタートアップを支援するためのインキュベーション施設（\*1）を開設しました。道内各地にある大学や研究機関、そして自治体等とのネットワークをさらに強化し、研究開発型スタートアップ創出を加速させる具体的な取組みをスタートします。9月中はプレオープン期間として、10月15日（金）から本オープンです。

コンセプトは、「北海道の叡智（<sup>えいち</sup>H）をかけあわせ（X）、旧来の産業構造にトランスフォームを起こすこと」とし、その想いをHX（エイチクロス）という名称に込めています。広域に点在する道内の大学及び研究機関を結ぶ

中心拠点として、支援プログラムや人材マッチングなど、今後複数の起業サポートプログラムを実施予定です。北海道に持続可能な新しい産業構造の創出を目指す取組みを進めてまいります。

現在予定している3つの大きな取組は以下のとおりです。研究者の起業ニーズに応え、大学等における起業サポート人材の育成を進めるために、継続的な取組を行う予定です。

### （1）X（クロス）ディレクターの相談窓口

小樽商科大学から派遣される産学連携専門教員等が常時駐在し、起業への相談業務に対応。

### （2）X（クロス）ネットワークミーティングの開催

毎月1回オンラインイベントを開催。起業に関心のある人材のネットワーク構築を推進。

（3）X（クロス）コンテンツの発信  
起業をサポートする支援人材を対象とした教育プログラムを構築。また、10月にはNoMaps（\*2）において、起業を目指す研究者によるカンファレンスを実施。

（\*1）インキュベーション施設…起業する人材や、創業初期にある企業を支援する施設。

（\*2）NoMaps…札幌市で行われるクリエイティブのコンベンションのひとつ。

（産学・地域協働推進機構）



施設内観

## 北大認定商品として新たにお漬物「まるごと道産素材」が誕生

北大認定商品として新たに、お漬物「まるごと道産素材」が誕生しました。

この商品は株式会社香貴（札幌市）が農学研究院の坂爪浩史研究室での研究成果に基づき開発したもので、北大認定商品初となる社会科学系の研究成果から誕生した商品です。

お漬け物の種類は、割干し大根、割干し大根はくさい添え、かぼちゃ大根、しそ大根、とうきびミックス、蝦夷福神、蝦夷しば漬と豊富で、今後も追加される予定です。持ち運びがしやすく、お土産にもちょうど良い商品です。

この商品を開発した同社代表取締役社長の酒井信男氏は、昭和23年生まれの御年73歳。2011年から坂爪研究室の

研究員として、「地産地消延長型マーケティング」について研究を続けています。この「地産地消延長型マーケティング」とは、地元産原料を利用して最終製品まで加工を行い、地元北海道民への販売を通じて支持を獲得し、そのブランド力をもって、北海道外へも販売を拡大する戦略です。酒井氏はこの研究を通じて、大手スーパーチェーンのプライベートブランドの下請け製造だけではなく、自社製品へのこだわりが大事だと強く意識したそうです。酒井氏はこの研究成果を同社にて実証したいと、この「まるごと道産素材」シリーズを開発しました。

商品のこだわりは、その名の通り道産素材のみを使用したことです。通年

同じ商品を作り続けることが難しい反面、旬の素材を活かした多様な商品を開発し、北海道の季節の味をお届けします。

例えば「蝦夷しば漬」に使用されている赤しそやミョウガもすべて北海道産で、素材の入荷を待ってから順次塩漬けにするため、商品完成までに時間がかかってしまうのも、道産素材にこだわるがゆえです。

現在、道内・道の駅他、新千歳空港等のお土産屋さんで、販売しています。

店頭で見つけたら、是非、お試しください。

（産学・地域協働推進機構）



新商品の割干し大根と蝦夷福神

## 「北海道大学 新技術説明会」を開催

産学・地域協働推進機構は、9月2日（木）に「北海道大学 新技術説明会」を開催しました。本イベントは科学技術振興機構（JST）と本学の主催によるもので、本学が有する技術シーズ（特許）を紹介し、企業とのマッチングを図ることが目的です。

当日は情報科学研究院の浅井哲也教授、工学研究院の米澤 徹教授、工学研究院の田坂裕司准教授と坪内直人准

教授、水産科学研究院の高橋勇樹助教よりシーズの紹介を行いました。新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き今年度もオンラインでの開催となりましたが、358名の参加者があり、14社から問い合わせを頂きました。

説明会の様子がYouTube「channel新技術説明会」に掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

YouTube「channel新技術説明会 北海道大学」

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLgOnCE9KusCODsZHcdcoy\\_L7ZtcbRGowR](https://www.youtube.com/playlist?list=PLgOnCE9KusCODsZHcdcoy_L7ZtcbRGowR)

参考URL

[https://shingi.jst.go.jp/list/list\\_2021/2021\\_hokudai.html](https://shingi.jst.go.jp/list/list_2021/2021_hokudai.html)

（産学・地域協働推進機構）

## サブサハラ・アフリカ地域向けにオンライン「日本留学フェア」を開催

アフリカルサカオフィスでは、8月3日（火）から9月10日（金）にサブサハラ・アフリカ地域の留学希望者を対象としたオンライン「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、同地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、在ケニア日本国大使館、JETROナイロビ事務所、JSPSナイロビ研究連絡センター及び国際交流基金の後援を受けて実施しました。

本フェアでは、参加者への効果的な情報提供を目指し、「学部」、「大学院（文系）」、「大学院（理系）」と3回に分けて開催し、本学を含む53大学から、38の学部プログラム、23の大学院（文系）プログラム、44の大学院（理系）プログラムを紹介しました。各フェアでは、日本留学に関する全般的な情報提供、各プログラムを紹介す

る動画の放映と各大学とのグループ相談会が行われました。サブサハラ・アフリカからの留学希望者が親近感を持てるように、本学に在学する同地域出身の留学生が司会を務め、さらに同地域出身の在日及び帰国留学生が「日本の大学の魅力」などについて紹介しました。本フェアの運営は、アフリカルサカオフィス（留学コーディネーターの日下部光特任准教授及び伊藤正芳特任助教、山本ひとみ事務補佐員）、同ナイロビサテライト（留学コーディネーターの大門 碧特任助教）などが担当しました。

本フェアでは、参加者の多くがスマートフォンからアクセスすることを想定し、送受信するデータ容量を軽量化したイベントサイトを開設したり、本事業で開設している「大学検索データ・ポータル」と連動させたり、関心を持った人が幅広く情報にアクセスできるよう工夫しました。本事業のSNS

やメーリングリストを活用すると同時に、後援機関や参加大学、対象地域の在外公館や大学・高校の協力を得て広報を行った結果、サブサハラ・アフリカ49カ国中42カ国から登録があり、当日の参加者数は、「学部」が102人、「大学院（文系）」が133人、「大学院（理系）」は234人でした。

本フェアでは、大学単位ではなくプログラム単位で留学希望者のニーズに合わせた情報提供を目指したこと、サブサハラ・アフリカ全てを対象にしたことなど、オンラインだからこそできる新しい試みに挑戦しました。一方で、各グループ相談会での会話を盛り上げることをはじめ、オンラインならではの困難も経験しました。今後も同地域からの留学生増加や交流の更なる促進につなげていきます。

（国際部国際連携課）



札幌キャンパスから運営している様子



オンライン日本留学フェアの様子

## ボゴール農業大学学生団体主催イベントに学生5名が参加

9月5日(日)、ボゴール農業大学コミュニケーション・コミュニティ開発学科学生団体HIMASIERAによるイベント「Build the International Relations (国際関係構築)」に、本学工学部、経済学部、現代日本学プログラム課程(MJSP)所属の学生5名が参加しました。本イベントは、ボゴール農業大学にある本学インドネシアリエゾンオフィスをとおしての依頼により、コロナ禍の大学生活・オンライン教育経験について両校の学生目線で振り返るといふ目的で、開催されました。

岩淵和則総長補佐・農学研究院教授、ボゴール農業大学コミュニケーション・コミュニティ開発学科のHana Indriana事務局長のイベント開催に係る挨拶の後、経済学部3年の小堆幹生さん、工学部3年の田中正紀さんの講演「How is the studying process during

pandemic? (パンデミック中の学習過程はどうだったか?)」を行いました。過去20ヶ月における本学でのオンラインのリアルタイム及びオンデマンド講義や実験などの少人数の対面授業に加え、小堆さんからは、IT企業でのインターンシップ経験や今後の留学希望が、田中さんからは、研究インターンシップや、予定されている在日日系企業でのインターンシップにおけるオンラインの活用性を紹介しました。

続いて、経済学部3年の吉岡琴音さん、木下立也さん、MJSPのインドネシア人留学生Aiko Humairaさんに対するインタビュー・セッションが行われ、サークル活動から予習復習といった日々の大学生活や本学から海外に留学する際の奨学金、北大留学希望者へのアドバイス、オンライン教育での大学からの経費支援、北海道の気候等、

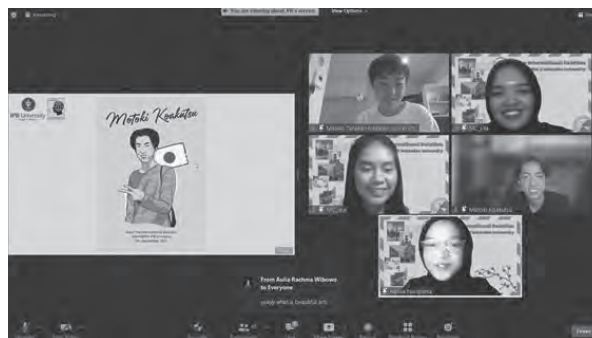
幅広い質問が飛び交いました。

北大側からは、先方の学生たちの英語力の高さに感心するコメントや勉強方法についての相談があり、サブスクリプション型動画配信サービスの英語学習への活用方法が共有されました。今後もSNSでコミュニケーションを続けていくことを約束し、参加者50名弱のイベントは和やかに終了しました。参加学生たちには、協定校の学生と直接関わり、学生目線のコロナ禍経験をカジュアルに共有できる機会となりました。ボゴール農業大学はその専門性の強さから理系の学生交流が多い協定校ですが、部局を超えた学生同士の交流が今後の連携強化の一助となることが期待されます。

(国際連携機構)



岩淵総長補佐の挨拶



講演の様子



集合スクリーンショット

## 第3回日露大学協会総会に参加

9月16日（木）、日露大学協会の第3回総会（第9回日露学長会議）が開催され、寶金清博総長、横田 篤理事・副学長がオンライン出席しました。新潟大学がホストとなり開催された今回の総会は、日露計55大学から延べ140名が参加しました。

総会では、新潟大学の牛木辰男学長及びモスクワ国立大学のヴィクトル・サドーヴニチ学長の開会挨拶に続き、寶金総長が日露大学協会の活動状況について基調講演を行いました。その後、学長からの事例報告では、日露の計6大学から学生交流と専門人材育成についての取り組みが紹介され、学長間で意見が交わされました。

その後、本総会のサイドイベントである日露学生フォーラム及び日露学術フォーラムの成果報告が行われ、SDGsに関する学術フォーラムの成果について、横田理事・副学長が発表を行いました。会議の最後に採択されたコミュニケ

ニケでは、日露の友好関係、交流活動の進展に向け、今後も一層の努力を続けることが合意され、寶金総長、サドーヴニチ学長及び牛木学長の3者により署名が行われました。次回の総会は、2023年にモスクワで開催される予定です。

本総会のサイドイベントとして12日（日）と13日（月）にオンライン開催された第3回日露学生フォーラムには、日露計57大学より約100名の学生が参加しました。

本フォーラムは、第1回総会にて設立が承認された日露学生連盟の活動の一つで、今回は文化交流セッションと題した全体セッションにおける日露学生の交流に始まり、医学・自然科学・社会科学・人文科学の分野に分かれ、意見交換が行われました。当面はオンラインによる交流となりますが、2023年にモスクワで開催される次回フォーラムに向けて、日露学生連盟の活動が

活発化することが期待されます。

同じくサイドイベントである日露学術フォーラムにおいては、14日（火）と15日（水）にSDGs分野及び医学教育分野のセッションがオンライン開催されました。本学が主催したSDGs分野の4セッションは、北極圏の環境保護、先住民族の言語と文化、子どもの健康と成長、生態系モニタリングをテーマとして実施され、日露に加えヨーロッパ・アジアより合計200名近くの参加があり、今後も日露間の学術交流を継続・発展させていくことが確認されました。

また、総会開催を記念して、7日（火）には日露人材交流委員会がオンライン開催され、日露より大学関係者約70名が参加し、日露共同教育の発展の可能性について検討しました。

（国際部国際連携課）



寶金総長による基調講演



横田理事・副学長による学術フォーラム成果報告



コミュニケの採択

# アートプロジェクト「アノオンシツ」が橋の思い出を募集中 ～オンライン展示「札幌の木、北海道の椅子展 2021」も開催中～

高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門（以下、CoSTEP）では、地域と大学、アートと科学を繋げて自然との付き合い方を考える「アノオンシツ」プロジェクトを実施しています。本アートプロジェクトは、札幌研究林にある古い温室とその周辺を軸に、自然との付き合い方を考える実践研究です。令和2年9月から、CoSTEPと北方圏フィールド科学センターの共催で、アーティストでもあるCoSTEP特任講師の朴 炫貞が代表を務めています。

「さよなら、あの橋」一石山通りを渡る跨道橋に関する思い出を募集

石山通りを南から北に向かって走ってみると、北8条あたりで橋が見えます。何の標識もなく、たまに人や車が通るこの橋は、本学の札幌キャンパスを繋ぐ橋です。

この跨道橋は、1972年の札幌冬季オリンピック開催の折、札幌キャンパスを分断する形で石山通りを開通するこ

ととなったため、キャンパスを繋ぐために建設されました。施設の老朽化で、2021年8月から10月にかけて、撤去工事が行われました。

本プロジェクトでは、約50年の時を経てなくなってしまう跨道橋への、皆様の思い出を募集しています。記憶を集めて記録として残すことは、しっかり橋とさよならすることに繋がります。折しも2021年は、東京2020オリンピックのマラソン競技が札幌で開催されました。札幌冬季オリンピックから半世紀経った後の今を、未来に伝えたいと思います。

文章、写真、映像、音など、どの形でも構いません。募集した思い出は、アーカイブして保存していく予定です。ぜひ、身近で橋と過ごしてきた時間を振り返り、その記憶を共有してください。

「札幌の木、北海道の椅子展 2021」  
オンライン展示開催中

本展示は、本学で伐採された木材を

活用して、北海道のつくり手がオリジナルの椅子をつくるプロジェクトです。そして、つくり手と研究者のトークシリーズを通して、森に対する多様な視点を共有します。

つくり手12組の椅子づくりに関するインタビューと新作椅子の紹介や、つくり手と研究者の木に関するトークシリーズを、令和4年3月まで毎週配信します。対面での展示は令和4年6月の掲載を予定しています。ものづくりと研究という、一見すると全く異なる領域が交差する瞬間をリアルタイムで体験してみてください。

いずれのプロジェクトも、詳細は下記にてご確認ください。

アノオンシツのウェブサイト

<http://anogreenhouse.com/>

CoSTEPのウェブサイト

<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/event/19365>

（高等教育推進機構）



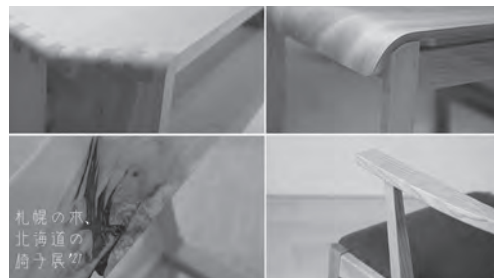
さよなら、あの橋  
札幌研究林から見た橋の上の風景



さよなら、あの橋  
令和2年9月の撤去様子



札幌の木、北海道の椅子展  
令和2年10月伐採の様子（イチョウが伐採された後）



札幌の木、北海道の椅子展  
今回はイチョウとアカナラを使った新作椅子に関する思いを動画で紹介

# 博士人材と企業の情報交換会 第46回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、9月8日（水）～9月13日（月）にオンラインにて、本年度第1回（通算第46回）「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催しました。

本会は、次世代研究者挑戦的研究プログラムのキャリア支援にも活用される予定のプログラムです。博士人材を求める企業と自身のキャリアの可能性を広げたい博士人材が、専門分野を超えた交流を行い、博士人材の活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今年度もコロナ禍のため、第1回目はオンラインでの開催となりました。昨年度は参加人数に制限が無いオンラインの特徴を活かして、60名以上の学生と40社の企業が参加しましたが、後日分析した結果、学生と企業との密接な双方向交流が起きにくいことがわかりました。

そのため、今回は人数を絞り、参加学生総数は44名、参加企業は20社としました。参加学生の内訳は、本学の博士人材が9部局39名、平成26年度末よ

り採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業により連携大学から参加した博士人材が5名（東北大学1名、立命館大学2名、兵庫県立大学1名、新潟大学1名）です。

本会では、はじめに人材育成本部の動画配信サイトにて、企業・博士人材が事前に作成・アップロードした動画や資料を双方が視聴・閲覧し、チャットによる交流を行いました。その後、Zoomにて博士人材が企業ブースを訪問し個別情報交換を、Spatial Chatにて学生と企業が自由に相互交流できる懇親会を実施しました。

開催後、企業からは、「全体を通じて少人数での話ができただ点が非常に良く、特にSpatial Chatでの懇親会では参加された学生の方と深く交流することができました。」「博士の皆さんが、動画を作成したり、たくさんの質問をご用意いただいたり、就活に向けての熱意と努力を感じられる機会でした。」との声をいただくことができました。また参加した博士人材からは、「博士人材としての就職活動に関して

とにかく学びの多い会であり、参加できたことを幸運に思います。」「分野の異なる企業で自身の技術に需要があることに気づきました。」「昨年に引き続き、今年もとても良い機会となりました。」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では上記の活動のほか、Advanced COSA、個別キャリア相談、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。また、これらのプログラムは次世代研究者挑戦的研究プログラムでも活用する予定です。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご興味のある方は、人材育成本部のホームページをご覧ください。

(<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>)

(人材育成本部)



吉原拓也特任教授の趣旨説明



Zoomによる個別情報交換の説明



博士人材と企業の個別情報交換



## サステナビリティ推進機構の設置を記念したキックオフセミナー 「サステナビリティと北海道大学」をオンライン開催

9月22日（水）に、サステナビリティ推進機構の設置を記念したキックオフセミナー「サステナビリティと北海道大学」をオンラインで開催しました。

本学は8月1日（日）に、総長をトップとした「サステナビリティ推進機構」を設置しました。本機構はSDGs関連事業を強力に推進する「SDGs事業推進本部」（新設）と、既存の「サステナブルキャンパスマネジメント本部」との2つの本部を両輪として、グリーン・スマート・サステナブルキャンパスの実現を目指します。

セミナーでは寶金清博総長の開会挨拶の後、一般社団法人日本経済団体連合会から、池田三知子SDGs本部長より来賓挨拶をいただいた後、横田 篤理事・副学長（国際、SDGs担当）より「北大発展の歴史とSDGs」と題して講演を行いました。

本講演では、これまでの北海道大学の歩み、世界の課題解決に向けて大学の役割と地域・産業界との連携及びこれからの北海道大学の取り組みについて紹介しました。本学が「SDGs」という言葉がない時代から持続可能な社会への貢献を目指してきたことを踏まえ、開校当初からの理念である「フロンティア精神」「実学の重視」のもと広大な研究林を用いた環境測定や、実習船による現場教育など、具体的な事例とともに説明があり、本学がこれからも積極的に世界の課題に取り組んでいく決意が述べられました。

続いて、出村 誠総長補佐より、サステナビリティ推進機構の説明と本機構における今後の展望について紹介しました。

次に、本学と4月7日（水）に包括連携協定を締結した北海道から、浦本元人副知事にご講演いただきました

（公務のため事前録画したものを放映）。本講演ではこの包括連携協定の柱である「人材育成の推進」、「SDGsの推進」、「経済・産業の振興」、「Society5.0」の実現等について説明があり、今後、連携・協力を推進する上での課題等に関する情報・意見交換を行い、協働で取り組むことが述べられました。

最後に、閉会の挨拶として、岩淵和則総長補佐から今後の本学のSDGsへの展望が述べられ、セミナーは終了しました。

なお、本セミナーには学内外から200名以上の方々にご視聴いただきました。参加された皆様に感謝申し上げます。

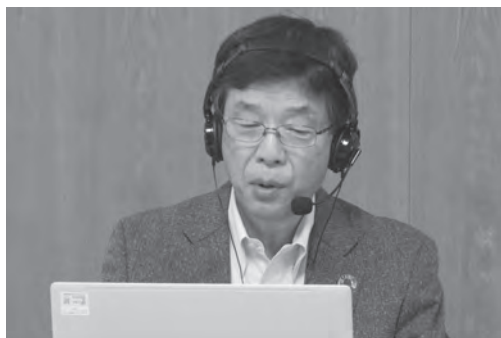
（サステナビリティ推進機構）



開会挨拶を行う寶金総長



講演を行う横田理事・副学長



推進機構の紹介を行う出村総長補佐



閉会の挨拶を行う岩淵総長補佐

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報  
基金累計額（9月30日現在）

31,184件 5,623,408,569円

## 9月のご寄附状況

法人等6社、個人213名の方々から31,343,348円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社MATコンサルティング、すずらん歯科医院、富井建設株式会社、北海道読売販売事業協同組合

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 俊介	阿部 雅史	荒井 克俊	新井 三郎	井指 康裕	石井 哲夫	石川 光男
石黒晋太郎	石田 隆雄	伊藤 正美	井上 弘子	猪股 路子	井原 博	入江 和彦	入澤 秀次
氏野 隆	内海 景憲	江島 新	枝澤 寛	衣斐 秀郎	縁記 和也	大野 泰熙	大場 清昭
大原 正範	岡 國太郎	尾形 吉一	岡本 正敏	小川 俊弘	奥田 英信	小田原一史	小野寺隆平
加藤 寛	嘉藤 好彦	金川 眞行	神山 康明	亀澤 一昭	鴨志田正晃	河上 裕美	川瀬 紀子
河本 充司	北野 文子	北村 均	衣川 暢子	KIM DAEL	久下 眞一	日下 大器	小菅 充
小林 賢人	小松 幹久	権藤 泉	齋藤 厚志	齊藤 晋	齊藤 久	坂田 章吉	坂本 大介
佐藤 修二	三升畑元基	志済 聡子	城田 昌良	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 貴之	鈴木 鐵也
瀬名波栄潤	添田 忍	竹田洋一郎	竹花 努	田中 佐織	谷口 滋穂	千葉 喜平	土家 琢磨
土屋 裕	寺澤 陸	戸田 純子	豊田 威信	中島 代博	中塚 英俊	成田 安孝	西浦 洋一
西田 実弘	西村真由美	野中 達浩	橋本 淳	橋本 浩典	八反田元子	花田 秀一	原 敬俊
平井 司	福士 幸治	福永 悟郎	藤澤 裕子	古田 康	堀田 敬三	前田 博	政氏 伸夫
正木 史洋	町田 貴裕	松田 健一	松原 謙一	松本 佐織	三栗 茂	三橋 隆志	宮田 信幸
宮脇 慶子	宮脇 敬	村上 泰一	村上 幸夫	村瀬徳啓充	矢嶋 剛	山田 勉	山本 貴子
山脇 有紗	横田 篤	横山 明子	横山 考	吉田 広志	吉永 孝一	渡辺 研二	

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

北海道読売販売事業協同組合

（個人）

伊藤 正美、正木 史洋、宮脇 慶子、宮脇 敬

## ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

### ①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## ■ 部局ニュース

### 動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では令和3年度動物慰霊式を、9月30日（木）、医学部学友会館「フラテ」ホールにおいて新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等が参列しました。

はじめに渡邊雅彦施設長から追悼の辞を述べた後、畠山鎮次研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行いました。最後に渡邊施設長から適正

な動物実験の実施及びコロナ禍における感染防止策の徹底について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる渡邊施設長



畠山研究院長による挨拶



参列者による献花

# The 5th FHS International Conference (第5回保健科学研究院国際シンポジウム) を開催

9月17日(金)～18日(土)の2日間、保健科学研究院においてThe 5th FHS International Conference, FHS 2021 (FHS 2021, 第5回国際シンポジウム)を開催しました。

保健科学研究院 (Faculty of Health Sciences, FHS) が主催する国際シンポジウムは2013年から隔年開催しており、第5回目を迎えた今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により初のオンライン開催となり、約250名にご参加いただきました。

今回は、協定校の香港大学からDr. Polly Wai-Chi Li, 台北医学大学からDr. Yung-Feng Lin, チュラロンコン大学からDr. Anussara Prayonggratを招待したほか、国立成功大学(台湾)からDr. Cheng-Feng Lin, 中南湘雅二医院(中国)からDr. Qian Liu, タンロン大学(ベトナム)からDr. Hien Thi Thu Ngoをお招きし、さらに、保健科学研究院から吉田倫子講師、長谷川直哉助教、吉村高明助教、Sikopo

Nyambe学術研究員の計10名が講演を行いました。看護学、臨床検査学、放射線医学、理学・作業療法学、国際保健学、健康科学といった広範な保健医療分野をカバーするシンポジウムになりました。

講演に加えて、第2回国際シンポジウム (FHS 2015) から恒例となっている、大学院生による一人1分間の口頭ポスター紹介「ショットガン・プレゼンテーション」は事前に撮影した動画をZoom内で視聴し、続いて、85題のポスター発表に関する質疑応答がオンラインビジネスツールであるSlack上で2日間に分けて行われました。

招待講演やポスターセッションはいずれもオンライン上でのやりとりでしたが終始活気に溢れ、大学院生は懸命に英語で自らの研究への質問やコメントに答え、活発なやりとりが行われました。新型コロナウイルスの感染拡大する中、大学院生が海外に渡航して国際学会に参加する機会に限られている

ことから、本国際シンポジウムは大学院生にとって大変貴重な機会です。この経験を今後の研究活動に活かしてもらいたいと期待しています。

また、ポスターを発表した大学院生に贈られる「Best Poster Award」については、Shan Yunさん(保健科学コースD3)、Yi Zengさん(保健科学コースD1)、上田龍一郎さん(保健科学コースM2)の3名が受賞しました。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、海外からの招待講演者の皆様、座長及び発表を引き受けていただいた保健科学研究院の教員の方々、当日の運営及び準備等にご尽力いただいた国際交流専門部会員及び事務の方々、保健科学研究院長をはじめ参加いただいた教員、大学院生、学部生の皆様に感謝申し上げます。

(保健科学院・保健科学研究院  
国際交流専門部会長)



伊達広行研究院長のご挨拶



Zoomによる講演の様子



オンラインWGによる運営の様子



「Best Poster Award」受賞者との記念撮影

## 令和3年度 地球環境科学研究所 公開講座 「環境との調和：化学を通して見える世界」が終了

地球環境科学研究所では、令和3年度公開講座「環境との調和：化学を通して見える世界」を8月23日（月）から9月27日（月）まで全6回をオンラインにて開講し、20歳代から80歳代までの53人が受講しました。

人をはじめとする生物は化学物質を通じて他の種や環境と調和して生命を営んでいます。そのため、それら物質

が環境とどのように調和しているのか化学の視点から眺め洞察することは、環境問題を考える上での極めて重要な知見を与えます。

本講座では、微小な世界で起きている現象を化学の視点から理解し、化学が地球規模の問題に対してどのように貢献し、今後、どのような貢献が期待できるかについて、6名の研究者が最

新の研究成果をわかりやすく説明し、受講者からも非常に好評のうちに終了となりました。

最終回の講義終了後、全6回の講義のうち4回以上出席した41人の受講者に修了証書が授与されました。

（地球環境科学研究所）



大原 雅研究院長による開講挨拶



小西克明教授によるオンライン講義（第2回）

# 人獣共通感染症国際共同研究所が国際シンポジウムをオンライン開催 ～第9回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議～

9月6日(月)・7日(火), 人獣共通感染症国際共同研究所が主催し, 獣医学院, 国際感染症学院, 卓越大学院プログラム, One Healthリサーチセンターと国際連携研究教育局(GI-CoRE)の共催で, 国際シンポジウム「第9回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」をCOVID-19感染による影響を考慮して, オンラインで開催しました。

6日(月)は, 本学の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーによる開会挨拶の後に, 当研究所所長の鈴木定彦教授より, ワクチン・創薬研究開発, 病原体探索研究と病原体ゲノム研究の3グループで構成される国際協働ユニット(GI-CoRE協力拠点)の役割と実施体制, メルボルン大学, アイルランド国立大学ダブリン校, アブドラ国王科学技術大学と当研究所のコンソーシアム形成の意義と目的について説明がありました。

次に当ユニットの拠点長であり, One

Healthリサーチセンター長の澤 洋文教授から, One Healthの概念と汎動物学の思想に基づくOne Healthリサーチセンターのミッションと研究の推進について説明がありました。

国際シンポジウムでは, 最初に獣医学研究院の池中良徳教授から, 「質量分析を用いたモノアミン神経伝達物質の高感度分析法の評価」についての招待講演, その後2日間にわたり, メルボルン大学のKatherine Kedzierska教授とGeorgia Deliyannis上席研究員, アイルランド国立大学ダブリン校のGabriel Gonzalez研究員, アブドラ国王科学技術大学のMuhammad Shuaib研究員, 及び当研究所の澤教授, 新開大史准教授と山岸潤也准教授の7名の研究者が人獣共通感染症研究の取り組みと進捗状況について講演をしました。

シンポジウムでは様々なトピックが取り上げられましたが, COVID-19が世界で猛威を振るう中, Kedzierska教授

の「SARS-CoV-2に感染した妊婦の免疫ネットワークのNK細胞とT細胞への影響」や, 澤教授の「S1/S2開裂部位に変異を有するSARS-CoV-2の性状解析の研究結果」をはじめ, COVID-19の制圧に向けた先端的研究の講演が多かった事が印象的でした。また, 講演の他に海外連携大学と国際感染症学院の学生を含む6名の若手研究者が, 世界の第一線で活躍する研究者に向け, 発表と意見交換をする貴重な機会が設けられました。

本シンポジウムには, 国と時差を超えて2日間で延べ166名が参加して活発な質疑応答が行われ, 盛会のうちに終了しました。なお, 国際感染症学院に所属する卓越大学院生には, 特別授業として公開され, One Healthの実現に向けた科学的知見と社会実装に関する知識を深める有意義な機会となりました。

(人獣共通感染症国際共同研究所)



シンポジウムの参加者



質疑応答の様子



シンポジウム運営会場

# 令和3年度北海道大学広域複合災害研究センター・読売新聞北海道支社共催 防災シンポジウム「冬の北海道の広域複合災害」を開催

広域複合災害研究センター（Center for Natural Hazards Research, 以下、CNHR）は、読売新聞北海道支社と共催で令和3年度防災シンポジウム「冬の北海道の広域複合災害」を9月9日（木）にオンライン開催しました。北海道では、積雪厳寒期に地震などが発生した場合、暴風雪などの影響と相まって広域複合災害となる恐れがあり、電気、交通などのライフラインへの影響も大きくなる懸念があります。本シンポジウムでは、気候変動下での豪雪予測、積雪厳寒期の道路交通災害や災害時の行政対応、平常時からの対策、感染症に配慮した避難対策、災害情報の収集・伝達などについての講演や議論がありました。シンポジウムには多くの一般住民から事前申込があったほか、当日は国や道などの行政防災

担当者、研究者、民間コンサルタントの技術者なども含めた120人以上が視聴しました。

シンポジウムでは、寶金清博総長から開会の挨拶ののち、本学名誉教授で、地方独立行政法人北海道立総合研究機構の丸谷知己理事から「無用の用-災害軽減のためのバッファゾーン-」と題した基調講演、続いて、一般講演6題とパネルディスカッションを行い、最後に読売新聞の稲葉光秋北海道支社長より閉会挨拶がありました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、CNHR副センター長の厚井高志准教授をコーディネーターとして、「冬の北海道の広域複合災害を考える」をテーマに、気候変動の影響も考慮した“冬期に想定される広域複合災害”，災害情報の取得などに焦点

を当てた“対策や避難を実施するうえでの課題”，これらを踏まえた“効果的な減災対策の在り方”について、一般講演者6人をパネリストに迎えて議論が交わされました。

CNHRでは、防災に係るシンポジウムを年1回開催しており、今後も複雑化、多様化する自然災害に焦点を当て、行政や一般住民を対象としたシンポジウムを開催し、継続的にアウトリーチ活動を行っていきます。

なお、本学と読売新聞北海道支社は、本年3月に、相互に連携した社会貢献活動を推進するための包括連携協定を締結しており、今回の防災シンポジウムはこの連携協定の一環として共催で開催しました。

（広域複合災害研究センター）

## 一般講演

- CNHR兼務教員 稲津 将教授（理学研究院）「気候変動下での北海道における豪雪」
- CNHR兼務教員 萩原 亨教授（工学研究院）「自然災害により発生する道路交通災害について」
- 国土交通省北海道開発局事業振興部 桑島正樹調整官「北海道開発局の防災業務と雪害・暴風雪対策」
- 北海道総務部危機対策局 野崎直人局長「感染にも配慮した警戒避難対策」
- 読売新聞北海道支社 井上雄太記者「北海道地震の取材経験を踏まえた災害情報の収集と伝達」
- CNHR専任教員 岡田成幸特任教授「積雪寒冷地域における広域複合災害の課題と減災の考え方」



開会挨拶をする寶金総長



基調講演中の丸谷名誉教授



パネルディスカッションの様子



閉会挨拶をする稲葉 読売新聞北海道支社長



## 環境健康科学研究教育センター岸 玲子特別招へい教授が国際環境疫学会のJohn Goldsmith賞を受賞

環境健康科学研究教育センターの岸 玲子特別招へい教授が2021年国際環境疫学会（International Society for Environmental Epidemiology）のJohn Goldsmith賞（[https://iseepi.org/john\\_goldsmith\\_award.php](https://iseepi.org/john_goldsmith_award.php)）を受賞されました。

8月26日（木）にニューヨーク、コロンビア大学にて授賞式が執り行われ、さらに、同日（日本時間午後10時30分～）オンラインで第33回年次総会のキーノートセッションにて「Impacts of Developmental Exposure to Environmental Chemicals on Human Health: The Hokkaido Birth Cohort Study with Global Perspectives」と題し、受賞記念講演を行いました。

この賞は、国際環境疫学会（ISEE）の主催者の一人であり、初期のリーダーで献身的なサポーターでもあった、John Goldsmith博士の遺志を継いで1999年に創設されたものです。長年にわたって環境疫学の分野で革新的な貢献をしてきた研究者であることと、生

涯を通じての社会的な貢献を評価され、米国、ヨーロッパの以外の国から初めて受賞されました。

受賞者の岸教授は、本学にて1971年に医学士を、1977年に医学博士号を取得し、1989年には米国ハーバード大学で公衆衛生学修士号を取得しました。1997年から2010年まで、本学医学部公衆衛生学教室の教授を務めた後、2010年から、本学環境健康科学研究教育センターの初代センター長を務めました。2018年からは、ディスティングウィッシュユツプロフェッサーの称号を付与されています。同センターは、2015年4月22日より世界保健機関研究協力センター（環境化学物質による健康障害の予防センター）に指定され、岸教授はDirector（責任者）となりました。

岸教授は、環境化学物質への曝露が人の健康に及ぼす影響を長年に渡り研究してきました。2002年には約2万組の母子を対象とした、前向きコホート研究「環境と子どもの健康に関する北海道研究（通称：北海道スタディ、環

境と健康に関するモニタリング調査）」を立ち上げ、出生前、乳児期、小児期の発達とその後生涯を通じての健康における環境と遺伝的素因の影響を調べています。これは、健康に対する環境要因の影響を調査する必要性の高まりと、これまで日本では胎児期の化学物質等の曝露にスポットを当てて出生前から追跡をした研究がほとんどなかったことから始められた研究です。こうした長年にわたる環境疫学の分野で革新的な貢献が、「環境疫学の発展と社会への持続的かつ卓越した貢献」として認められ、受賞に至りました。

岸教授は「この度、前向きコホート研究で見出した新しい環境リスク評価の方法や研究結果の社会的重要性が認められました。この分野の若い研究者の育成につながりますので大変うれしく思います。」と述べました。

（環境健康科学研究教育センター）



受賞記念講演後の質疑応答と国際環境疫学会から授与された表彰状

## ■お知らせ

### 医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。実施内容は次のとおりです。

#### 1 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る令和3年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員、遠隔地被扶養者及び在外組合員に係る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

#### 2 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

#### 3 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、令和3年11月末日までに各部局等の共済事務担当係から行われる予定です。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

## 博士學位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士100人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士10人に対する学位記授与式を、9月24日（金）午前10時から学術交流会館講堂において新型コロナウイルス感染症対策に配慮した上で挙行了しました。

9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（法学）	チョウ ショウコウ 張 曉航	社会内処遇における電子監視制度－アメリカ、ドイツ、日本の状況から見た中国法への示唆－ 主査：教授 城下 裕二
博士（水産科学）	ス バ ポ ン Supapong パ ッ タ ラ ポ ン パ ン Pattarapongpan	Stock assessment of elasmobranch in Southeast Asia using yield per recruit and spawning per recruit analyses (東南アジアにおける板鰐類のYPR・SPR解析を用いた資源評価) 主査：教授 今村 央
	ト ラ ン TRAN グ エ ン ハ イ NGUYEN HAI ナ ム NAM	Life history of Pacific rainbow smelt <i>Osmerus dentex</i> in Funka Bay, Japan (噴火湾におけるキュウリウオ <i>Osmerus dentex</i> の生活史) 主査：教授 綿貫 豊
博士（環境科学）	セ レ ー ス SERENE エズラ コルプス EZRA CORPUS ボンダッド BONDAD	Effects of environmental factors on the pro-oxidant properties of epigallocatechin gallate (エピガロカテキンガレートの酸化促進特性に対する環境要因の影響) 主査：教授 沖野 龍文
	シ ン XING ダ オ チ ャ オ DAOCHAO	Factors for controlling stable isotopic composition of amino acids of marine organisms: Implication to aquatic ecosystem studies (海洋生物に含まれるアミノ酸の安定同位体比を変化させる要因の解明) 主査：教授 力石 嘉人
	グ エ ン テ ィ NGUYEN THI ハ ン HANH	Transport model diagnosis of stratospheric transport field using boundary impulse evolving response method (境界パルス応答法を用いた輸送モデルによる成層圏輸送場の診断) 主査：准教授 藤原 正智
	ジ ョ ウ CHOU, ホ ン ウ ェ イ HUNG WEI	Impacts of tides on large scale wind driven boundary currents in climate sensitive regions (気候敏感海域における潮汐による大規模風成境界流へのインパクト) 主査：教授 三寺 史夫
	エ SANKARAMANGALAM ビ BALACHANDRAN バギヤラクシミ BHAGYA LAKSHMI	A microspectroscopic investigation of photoluminescence and electroluminescence in lead halide perovskites (ハロゲン化鉛ペロブスカイトにおける光および電気励起発光の顕微分光学的研究) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（環境科学）	エムディー MD. シャジャハン SHAHJAHAN	Spatially controlled bandgap engineering and charge carrier recombination in lead halide perovskites by optical trapping (光トラッピングによるハロゲン化鉛ペロブスカイトにおけるバンドギャップ工学と電荷キャリア再結合の空間的制御) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai
	ジチン Ji Qin	Construction of hydrogen-bonded organic frameworks based on nitrogen-containing $\pi$ -conjugated molecular systems (窒素含有 $\pi$ 共役分子系に基づく水素結合性有機フレームワークの構築) 主査：教授 中村 貴義
	チンシン Xin Chen	Development of ionophore hydrogen-bonded organic frameworks composed of crown ether derivatives (クラウンエーテル誘導体で構成されるイオノフォア水素結合性有機フレームワークの開発) 主査：教授 中村 貴義
博士（理学）	ミンソクキム MINSOO KIM	On the study of a reaction-diffusion particle model for clustering of self-propelled oil droplets on a surfactant solution (界面活性溶液上の自走油滴の集団運動に対する反応拡散-粒子モデルの研究) 主査：教授 長山 雅晴
	むかいしげお 向井 重雄	Pfaffian Systems of Confluent Hypergeometric Functions of Two Variables (2変数合流型超幾何関数のパフィアン系) 主査：教授 松本 圭司
	ムハマド ダルウィス DARWIS ウマール UMAR	Developments of New Analysis Functions for the Muon Spin Relaxation Spectroscopy (ミュオンスピン緩和分光法の新解析機能の開発) 主査：客員教授 渡邊 功雄
	レイニン LAI HNIN ビユ PHYU	Coulomb screening correction to the Q value of the triple-alpha process in thermal plasmas (熱プラズマ中の3アルファ反応におけるクーロン遮蔽効果に関する研究) 主査：教授 木村 真明
	ギヴォアルセパン Givo Alsepan	Interannual variability of precipitation over the Maritime Continent (海洋大陸における降水の経年変動) 主査：教授 見延 庄士郎
	イフサン IHSAN ナウファル NAUFAL ムアフイリ MUA FIRY	3D Tomography of Ionospheric Anomalies immediately before and after Large Earthquakes (巨大地震直前直後の電離圏異常の三次元トモグラフィー) 主査：教授 日置 幸介
	かじひろみ 加地 広美	Landslide controlled by geological structures: an example from eastern Hokkaido, Northern Japan (地質構造に規制される地すべり：北海道東部の事例) 主査：准教授 亀田 純
	ガオ 高 嘉祥	Bomb Cyclones in the HighResMIP Historical Simulations and Future Projections (HighResMIPの過去再現と将来投影実験における爆弾低気圧) 主査：教授 見延 庄士郎
博士（農学）	おのづか のぶや 小野塚 信哉	ジャガイモウイルスの検出技術とジャガイモYウイルスの発生実態に関する研究 主査：客員准教授 大木 健広
	トンシン 童 欣	Evolutionary ecology in gall-forming aphids: extreme polyphenism and biased sex ratios (虫こぶ形成アブラムシの進化生態学：極端な表現型可塑性と偏った性比) 主査：教授 秋元 信一
	ノウシェーン NOUSHEEN パルヴィン PARVEN	Effects of high temperature stress on aphid growth and reproduction: responses of clones with diverse genetic backgrounds and aphid symbionts to heat stress (高温ストレスがアブラムシの成長と繁殖に与える影響：多様な遺伝的背景を持つクローンおよびアブラムシ共生生物の熱ストレスに対する反応) 主査：教授 秋元 信一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（農学）	バラーゲール Balagalle ラジャバクシャー Rajapaksha マディヤンセレージ Mudiyanselage ゴニゴダー Gonigoda ワロウー Walauwe ディネーシャー ニパニー Dineesha Nipuni バラーギャラー Balagalla	Study on the dynamics and inheritance of mitochondria during conidiation in <i>Pyricularia oryzae</i> （イネいもち病菌の分生子形成時のミトコンドリアの動態と伝搬に関する研究） 主査：教授 曾根 輝雄
	ビョーハン PHYO HAN トイン THWIN	Studies on DNA rearrangements in rice blast fungus （イネいもち病菌におけるDNA再編成に関する研究） 主査：教授 曾根 輝雄
	マデグワ MADEGWA イヴォンス ムサビ Yvonne Musavi	The use of digestate from animal wastes and its impacts on the soil microbiome and nutrient dynamics in agricultural soils （家畜糞尿由来消化液の利用が農地土壌微生物叢と栄養素ダイナミクスに及ぼす影響の評価） 主査：准教授 内田 義崇
	わたなべ 渡部 ともこ 友子	Taxonomic study on tree-dwelling aphids, the <i>Tetraneura akinire</i> species group and the <i>Tuberculatus quercicola</i> species group (Insecta; Aphididae) in Japan （日本産樹上性アブラムシ <i>Tetraneura akinire</i> 種群及び <i>Tuberculatus quercicola</i> 種群の分類学的研究） 主査：教授 秋元 信一
	クォン 権 ジュン 峻	Roles of RNA silencing-related genes in tomato tolerance to viral infection （トマトのウイルス感染耐性におけるRNAサイレンシング関連遺伝子の役割） 主査：教授 増田 税
	アピチャット Aphichat トラクーンジャロエンヴィット Trakoontharoenvit	Studies on bioavailability of quercetin by combined feeding of $\alpha$ -glycosyl-isoquercitrin and soybean fiber, and the protective role against glucose intolerance in rats （ラットにおける $\alpha$ -グルコシルイソクエルシトリンと大豆繊維の共摂取によるケルセチンの生物学的利用能向上とそれによる耐糖能障害の予防に関する研究） 主査：准教授 比良 徹
	エレナ Helena デファティマ シルヴァ de Fatima Silva ロペス lopes	Bacterial profile of different indigo fluids and the effect of the addition of <i>Indigofera tinctoria</i> leaf powder on <i>sukumo</i> preparations （原料の異なる藍染め発酵液の微生物叢の解析およびスクモを用いた藍染め発酵液へのインド藍粉の効果） 主査：客員教授 湯本 勲
	カンナバット Kannapat ウドンバント Udompant	Development of positioning systems for an automatic combine harvester （コンバインハーベスタ自動化のための測位システムに関する研究） 主査：教授 野口 伸
	ナツティラー Nuttira パクガン Pakkang	Conversion of isolated lignins to electrode and separator of electric double layer capacitor suitable for ionic liquid electrolyte （イオン液体電解質に適した電気二重層キャパシタ用電極およびセパレータへの単離リグニンの変換） 主査：教授 浦木 康光
	ベン 彭 シライ 石磊	Modelling hydrological processes and $^{137}\text{Cs}$ load responses to climate and land use changes in Hiso River watershed, Fukushima, Japan （福島県比曽川流域における気候と土地利用の変化に対する水文過程と $^{137}\text{Cs}$ 負荷応答のモデル化） 主査：教授 当真 要
たいら 平良 しょうご 尚梧	蓄電デバイス用セパレータとしてのリグニンフィルムの開発とその力学強度の改善に関する研究 主査：教授 浦木 康光	
博士（生命科学）	おくむら 奥村 しょう 翔	Development of antisense oligonucleotides for suppressing breast cancer cell proliferation and the system for evaluating drug response of cardiomyocytes （乳がん細胞の増殖抑制を目指したアンチセンスと、心筋細胞に対する薬剤応答評価システムの開発） 主査：客員教授 小松 康雄

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（生命科学）	すずき こうすけ 鈴木 康介	Study on the Function of $\alpha$ -Defensin, Paneth cell-secreted Antimicrobial Peptide, as a Regulator of Intestinal Ecological System under Psychological Stress (心理ストレス下における腸内エコロジースystem制御因子としてのPaneth細胞分泌抗菌ペプチドである $\alpha$ -defensin機能に関する研究) 主査：教授 綾部 時芳
	やまうち あかり 山内 彩加林	Structure-function relationship of ice-binding proteins from cold-adapted organisms (低温適応生物由来氷結晶結合蛋白質の構造機能相関) 主査：客員教授 津田 栄
	かねこ ともゆき 兼子 朋之	Intracellular signaling for the effects of neuropeptides on the excitability of type II neurons in the bed nucleus of the stria terminalis (分界条床核II型神経細胞の興奮性に対する神経ペプチドの効果と細胞内情報伝達) 主査：教授 南 雅文
博士（薬科学）	しのはら ふみや 篠原 史弥	ストレスによるコカイン欲求行動の増強機構の解明— 内側前頭前皮質におけるノルアドレナリンおよびドパミン作動性神経伝達の役割— 主査：教授 南 雅文
	たけだ かずひこ 竹田 和彦	抗PD-1抗体の抗腫瘍効果を高める新規薬剤の同定及びその機能解析 主査：教授 木原 章雄
	なかしま りょうた 中島 良太	望ましい薬物動態を有する新規ROR $\gamma$ t阻害薬の創製研究 主査：教授 周東 智
博士（ソフトマター科学）	デヨン ヨン 鄭 庸	Study on the Effect of Polymer Dynamics and Phase Separation on the Mechanical Performance of Double Network Materials (ダブルネットワーク材料の力学性能に及ぼすポリマーダイナミクスと相分離の影響に関する研究) 主査：教授 龔 劍萍
博士（臨床薬学）	かどむら しょうた 門村 将太	Piperacillin/tazobactamの副作用および相互作用に関する疫学研究 主査：教授 菅原 満
博士（保健科学）	きばし けんと 佐橋 健人	変形性膝関節症症例における日常生活活動および生活の質と動的姿勢制御との関連性の検討 主査：教授 浅賀 忠義
博士（工学）	せがわ ゆうひろ 瀬川 裕大	収差補正透過電子顕微鏡によるFree-standingグラフェンの3次元原子分解能イメージング 主査：教授 郷原 一壽
	グオ ロンフエイ 郭 龍飛	Design and Modification of Spinel Type Ferrites (MFe <sub>2</sub> O <sub>4</sub> , M = Zn & Ca) with Highly Efficient Photocatalytic Performance (高効率光触媒性能を備えたスピネル型フェライト (MFe <sub>2</sub> O <sub>4</sub> , M = Zn & Ca) の設計と改良) 主査：准教授 沖中 憲之
	キム サンウオン KIM Sangwon	Numerical investigation on large-sized bubble injection for control of turbulent boundary layer -Horizontal channel flow and bubble-induced drag reduction- (乱流境界層を制御するための大型気泡注入に関する数値計算研究 -水平チャネル流れと気泡による抵抗低減-) 主査：教授 大島 伸行
	シア ユー XIA Yu	Turbulent flame propagation behavior and mechanism of solid particle cloud/ammonia co-combustion (固体粒子群とアンモニアの混焼における乱流火炎伝播挙動とメカニズム) 主査：准教授 橋本 望
	の と だいすけ 能登 大輔	Study on thermal convection by advancement of color-based optical measurements (色画像処理計測の高度化による熱対流研究) 主査：准教授 田坂 裕司
	エムディ ハルン アル Md. Harun Al Rashid	X-ray absorption spectroscopy studies on the structure and the catalytic activity of nickel phosphide catalysts (X線吸収分光法によるニッケルリン化合物触媒の構造と触媒特性の研究) 主査：教授 朝倉 清高

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（工学）	おかち ひろき 岡地 寛季	Estimation method of sea spray concentration and evaluation of momentum transfer at the sea surface under stormy conditions (暴風雨下における海面上での飛沫濃度分布の推定手法と運動量輸送の評価に関する研究) 主査：准教授 山田 朋人
	ミヤオ ベンヨン 苗 鵬勇	Prediction-based maintenance of existing structures considering multi-influential factors (複数の劣化要因を考慮した予測モデルに基づく既存構造物の維持管理) 主査：教授 蟹江 俊仁
	チエ ホビヨン 蔡 浩秉	Study on new thermal response test analysis with partial groundwater flow and its application for ground source heat pump system design (部分的に地下水流れが存在する地層に対する新しい熱応答試験の解析方法と地中熱ヒートポンプシステム設計への応用) 主査：教授 長野 克則
	シ ガン 石 剛	Development of a versatile computational fluid dynamics-based model for optimization and implementation of vacuum ultraviolet photoreactor for drinking water treatment (真空紫外線の浄水処理への導入と最適化に向けた汎用的流体力学モデルの開発) 主査：准教授 松下 拓
	イムラムハマドアル Imran Md Al	DEVELOPMENT OF AN ECO-FRIENDLY APPROACH FOR COASTAL EROSION PROTECTION USING BIO-MEDIATED TECHNOLOGY (バイオメディエーション技術を用いた海岸侵食対策のための新しい環境配慮型アプローチの開発) 主査：教授 川崎 了
	フランセス セミダ Frances Semida チカンダ Chikanda	Behavior of Fe colloids in mine drainages of circumneutral and acidic pH: Implications from geochemical trends and Fe isotopes (酸性および中性pHの鉱山廃水における鉄コロイドの挙動: 地球化学的傾向とFe同位体からの示唆) 主査：准教授 大竹 翼
	チョイ サンヒョン Choi Sanghyeon	Enhanced cementation for heavy metal removal and recovery using aluminum as electron donor and electro-conductive particles as electron mediator (電子供与体アルミニウムと電子媒介粒子を用いた重金属回収・除去のための高効率セメンテーション) 主査：教授 廣吉 直樹
	カスン シャミーラ Kasun Shameera ゴディガムワ Godigamuwa マヘーム バンダラ Maheem Bandara ムディヤンセラゲ Mudiyanselage	Biological fabrication of silica-based hybrid materials using silica-polymerizing enzymes (シリカ重合酵素を用いたシリカハイブリッド材料の生物学的作製) 主査：准教授 中島 一紀
博士（総合化学）	ジャン ダイファ 江 岱樺	Flexible Light-Emitting Diode Application of Polyfluorene-based Conjugated Polymers (ポリフルオレン含有高分子材料のフレキシブル発光ダイオード応用) 主査：教授 松本 謙一郎
	シュウ リゼ 徐 立哲	Synthesis of Bio-based Block Copolymers with Conjugated Segments and Their Applications in Electronic Devices (バイオベース共役ブロックコポリマーの合成と電子デバイス応用) 主査：教授 松本 謙一郎
博士（理学）	ファルハナ アフロズ Farhana Afroze	Active Self-Organization of Microtubules and Formation of Two-Dimensional DNA Network by Biomolecular Motor System (生体分子モーターシステムによる微小管の能動的自己組織化と2次元DNAネットワークの形成) 主査：教授 石森 浩一郎
	こはし こうき 小橋 功紀	Study on the Effect of Sequential Oncogenic Mutations on Cell Competition (多段階発がんにおける細胞競争の関与の研究) 主査：教授 村上 洋太

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（理学）	シエーク Shaikh ナズムル ハーサン Nazmul Hasan モハーメッド Mohammad ドスタギ Dostagir	Hydrogenation of Carbon Dioxide over Doped Metal Oxide Catalysts (ドーブ型金属酸化物触媒による二酸化炭素の水素化) 主査：教授 長谷川 淳也
	ダンジョ Danjo P. De チャベズ Chavez	Theoretical Study on Mechanically Stressed Chemical Systems (機械的応力下における化学反応系に関する理論的研究) 主査：教授 福岡 淳
	まつもと かつまさ 松本 克公	Construction of a Structurally-controlled Pt Shell-Pd Core Catalyst by Hydrogen Sacrificial Protection Method and Its Application for Polymer Electrolyte Fuel Cells (犠牲水素法による構造制御Ptシェル-Pdコア触媒の構築および固体高分子形燃料電池への適用) 主査：教授 村越 敬
	ルオ 羅 シュンチン 舜欽	Plasmonic Cu-based Catalysts Towards Solar-driven Production of Hydrogen and Value-added Products from Alcohol (Cu基プラズモニック金属触媒による光誘起アルコールの脱水素反応に関する研究) 主査：教授 村越 敬
	レン 任 シャオファイ 曉輝	Construction and Modification of Cobalt Active Sites for Efficient Photocatalytic Hydrogen Generation (コバルト活性部位の構築と修飾による効率的な光触媒水素生成に関する研究) 主査：教授 村越 敬
	ワン 王 ベン 奔	Theoretical Modeling of Fundamental Chemical Phenomena at Surface and Interface (表面や界面で起こる基礎的な化学現象に関する理論的モデル化) 主査：教授 長谷川 淳也
博士（経営学）	まじま 間島 はなこ 羽奈子	社会教育施設のサービス品質に関する理論的・経験的研究 主査：教授 平本 健太
博士（医学）	あべ 阿部 のぶや 靖矢	自己免疫疾患における精神神経学的側面と病態生理の関連に関する研究 (Altered neuropsychiatric aspect and pathophysiology in autoimmune disorders including systemic lupus erythematosus and inflammatory arthritis) 主査：教授 石田 晋
	いのうえ 井上 まさき 雅貴	ADH1B/ALDH2遺伝子型による頭頸部癌内視鏡治療後の異時性頭頸部癌発症リスクに関する検討 (Evaluation of the risk of metachronous multiple squamous cell carcinoma of the head and neck after endoscopic resection based on the genetic polymorphisms of alcohol dehydrogenase 1B and aldehyde dehydrogenase 2) 主査：教授 玉腰 暁子
	かりの 狩野 こうへい 皓平	自己免疫疾患の難治性臓器病変における新規治療戦略の探索 (A novel therapeutic approach for refractory organ involvement in autoimmune diseases: systemic lupus erythematosus and dermatomyositis) 主査：教授 氏家 英之
	こばやし 小林 ゆうた 雄太	全身疾患に伴う心筋症における新規診断および予後指標に関する研究 (Studies for novel diagnostic and prognostic indicators in patients with cardiomyopathy caused by systemic disease) 主査：教授 若狭 哲
	つねた 常田 さとのり 慧徳	心臓CTに対する新たな画像処理技術適応による診断能向上に関する検討 (Studies on novel post processing technique for improvement of diagnostic ability of cardiac computed tomography) 主査：准教授 兵頭 秀樹
	ベン 下 エイマン 榮満	胸椎思春期特発性側弯症に対する後方矯正固定術後の長期肺機能評価 (Long-term pulmonary function after posterior spinal fusion in main thoracic adolescent idiopathic scoliosis) 主査：教授 矢部 一郎



博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（医学）	リ 李 コン 聡	Studies on the functional roles of biglycan in tumor microenvironment (腫瘍微小環境におけるbiglycan の役割に関する研究) 主査：教授 篠原 信雄
	リアン 梁 ダウェイ 大偉	Quantification of cartilage degeneration by surface curvature using 3D scanning in a rabbit model (3Dスキャン技術を応用した表面曲率変化によるウサギ軟骨変性の定量化の試み) 主査：教授 近藤 英司
	ワン 汪 ユミン 煜民	Passive repetitive stretching is associated with greater muscle mass and cross-sectional area in sarcopenic muscle (他動的な反復ストレッチによるサルコペニア筋の筋量および筋断面積の増加) 主査：教授 山本 有平
	いしお 石尾 たかし 崇	CRISPR/Cas9 screeningによって同定されたATLLの新規治療分子標的 (Genome-wide CRISPR/Cas9 screen identifies novel therapeutic targets in ATLL) 主査：教授 真部 淳
	しばた 柴田 けんご 賢吾	肝温阻血再灌流における阻血時間と脂肪化に起因する生化学的変動の探索～新規障害予測マーカー確立のための基礎的研究 (Search for the biochemical changes due to varying ischemia time and fatty change in warm ischemia and reperfusion of rat liver - Basic study to identify novel markers for predicting post-reperfusion injury) 主査：教授 坂本 直哉
	つたほ 葛保 あきお 暁生	膵臓癌における線維化及びPD-L1の亢進に関する研究 (The studies on the elevated levels of fibrosis and PD-L1 of pancreatic cancer) 主査：教授 武富 紹信
	つねた 常田 みわ 美和	スリランカにおける母親の産後うつに関する疫学調査 (An Epidemiological Survey of Postpartum Depression among Mothers in Sri Lanka) 主査：教授 荒戸 照世
	ふじむら 藤村 ゆう 悠	創傷治癒における皮膚幹細胞の系譜細胞は毛包の発生を停止させながら表皮下水疱を治癒させる (Hair follicle stem cell progeny heal blisters while pausing hair development) 主査：教授 荒戸 照世
博士（獣医学）	ムドディーラシエドゥル Md. Rashedul イスラム ISLAM	Unique morpho-functional characteristics of folliculogenesis found in the ovary of cotton rat ( <i>Sigmodon hispidus</i> ) (コットンラット ( <i>Sigmodon hispidus</i> ) の卵胞形成にみられる特異な形態機能) 主査：教授 片桐 成二
	ケヴィン クリスチャン Kevin Christian モンテシリオ Montecillo グライ GULAY	The role of histone lysine demethylase 2B in the pathology of canine hemangiosarcoma (イヌ血管肉腫の病態におけるヒストンリジン脱メチル化酵素2Bの役割に関する研究) 主査：教授 滝口 満喜
	コリンズ Collins ニマコ NIMAKO	Exposure assessment and toxicological evaluations of neonicotinoid insecticides (殺虫剤ネオニコチノイドへのばく露と毒性学的評価) 主査：教授 木村 享史
	マダリソ Madalitso チェレンガ CHELENGA	Improvement of the <i>in vitro</i> growth culture system for bovine oocytes derived from early antral follicles: Effect of the duration of culture, oxygen environment, and astaxanthin supplementation on the acquisition of oocyte developmental competence (牛初期卵胞卵母細胞由来卵母細胞培養系の改善：培養期間、酸素濃度、アスタキサンチン添加が卵子の発生能獲得に及ぼす効果) 主査：教授 昆 泰寛
リー 李 ミンリャン 明亮	Study on the role of hypothalamic prostaglandins in the regulation of systemic glucose metabolism (マウスの全身糖代謝調節における視床下部プロスタグランジンの役割に関する研究) 主査：教授 乙黒 兼一	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士 (医理工学)	ゾルバダラル ZOLBADRAL ツォードル Tsoodol		Production of medical radioisotopes <sup>68</sup> Ga and <sup>45</sup> Ti in deuteron-induced reactions in cyclotrons (サイクロトロンを用いた重陽子入射反応による医療用放射性同位元素 <sup>68</sup> Gaと <sup>45</sup> Tiの生成) 主査:教授 合川 正幸
博士 (感染症学)	ウィモンラット Wimonrat タノムスイリダッチャイ TANOMSRIDACHCHAI		Genetic characterization of methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> isolated from pigs and pork meat in Thailand (タイにおいてブタ及び食肉から分離されたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の遺伝学的特徴) 主査:教授 中島 千絵
博士 (獣医学)	バザラグチャ Bazarragchaa エンクボールド ENKHBOLD		Studies on the control of influenza and classical swine fever (インフルエンザと豚熱の制御に関する研究) 主査:教授 莉和 宏明
	ローレンス Lawrence バスクアル Pascual ペロティンドス BELOTINDOS		Characteristics of <i>Escherichia coli</i> isolated from livestock and related materials in the Philippines (フィリピンにおいて家畜及び関連材料から分離された大腸菌の特徴) 主査:教授 中島 千絵
博士 (文学)	さわさき たかひろ 澤崎 高広		A Proof-Theoretic Study of Term-Sequence-Dyadic Deontic Logic and Common Sense Modal Predicate Logic (項列二項義務論理と常識的様相述語論理の証明論的研究) 主査:准教授 佐野 勝彦
	ウバルデ UBALDE マリアン MARRIANNE フォルタハダ FORTAJADA		Mapping the space of Ainu people's participation in museums: A case study on Nibutani kotan (博物館におけるアイヌ民族の参加状況について-二風谷コタンの事例研究を通して-) 主査:教授 佐々木 亨
	ほそかわ たかし 細川 貴志		自然災害と支援のプロジェクト・エスノグラフィー-フィリピン台風被災地における支援の実践と持続可能なしくみに関する研究- 主査:教授 宮内 泰介
	ヨウ ケイショウ 楊 恵翔		Mental chronometry ability and neural representation of motor imagery (運動イメージの心的時間測定能力と神経基盤) 主査:准教授 小川 健二
博士 (工学)	ウェイミアン 魏 冕		Study on the Optoelectronic Properties of Transparent Oxide Semiconductor A <sub>2</sub> SnO <sub>3</sub> (A = Ba, Sr, and Ca) Epitaxial Thin Films (透明酸化物半導体A <sub>2</sub> SnO <sub>3</sub> (A = Ba, Sr, Ca) エピタキシャル薄膜の光・電子特性に関する研究) 主査:特任教授 橋詰 保
	キム ゴウン 金 高韻		Study on the Heat and Electron Transport Properties of Tungsten Oxide Films with Various Atomic Arrangements (様々な原子配列を有する酸化タングステン薄膜の熱・電子輸送特性に関する研究) 主査:教授 葛西 誠也
	リ エンリン 李 遠霖		Study on tantalum oxide resistive memory operation using different nano-material compositions (異なるナノ材料で構成したタンタル酸化物抵抗変化メモリの動作特性に関する研究) 主査:教授 植村 哲也
博士 (情報科学)	すみよし 住吉 信一		実環境システムノイズにロバストな三次元計測および認識に関する研究 主査:教授 坂本 雄児
博士 (工学)	はにおか 壺岡 翔太		モータ駆動システムのコモンモードノイズを抑制するスイッチング制御に関する研究 主査:教授 小笠原 悟司

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（環境科学）	ポンベット Pongpet ボンシバパイ Pongsivapai	Sediment-water interactions of degrading floodplain waterbodies in the Ishikari River (石狩川の氾濫原水域における堆積土砂と水の相互作用) 主査：准教授 根岸 淳二郎
	ミールザ エティエム Mirza A.T.M. タンビル ラーマン Tanvir Rahman	A linkage between the underground and the land: insect-mediated resource fluxes and dispersals from the hyporheic zone of a gravel-bed river (地下と地上のつながり：扇状地河川河床間隙水域からの昆虫を介した物質移送およびその分散) 主査：准教授 根岸 淳二郎
博士（農学）	つかもと やすたか 塚本 康貴	水田の高生産畑作化に向けた土壌・水環境制御技術に関する研究 主査：教授 石黒 宗秀
博士（薬科学）	かたやま かつし 片山 勝史	フェノタイプ及びターゲットベースドスクリーニングによる新規ヘモグロビン症治療薬の創製 主査：教授 市川 聡
博士（工学）	にしやま なりあき 西山 成智	物理探査と地質・地下水調査による高塩濃度地下水分布の可視化に関する研究 - 岩石試料に基づく地下水塩分と比抵抗の関係 - Study on visualizing distribution of high salinity groundwater by the geophysical exploration and the geological and groundwater surveys - Relationship between salinity of groundwater and resistivity based on rock samples - 主査：特任教授 鈴木 浩一
博士（感染症学）	エディ ソロ Eddie Solo	Molecular characterization of <i>Mycobacterium tuberculosis</i> isolates and their association to multidrug resistance in Lusaka, Zambia (ザンビア共和国Lusaka市で分離された患者由来結核菌株の遺伝学的特徴と多剤耐性との関連に関する研究) 主査：教授 鈴木 定彦
博士（獣医学）	かねこ ちほ 兼子 千穂	Studies on designing effective and efficient canine vaccination program for rabies control in Zambia (ザンビア共和国における狂犬病制御のための効果的・効率的な犬のワクチン接種計画の立案に関する研究) 主査：教授 鈴木 定彦
博士（感染症学）	デビッド スクウェア David Squarre	Molecular epidemiological study of African trypanosomiasis and piroplasmiasis at the interface of human-wildlife-livestock populations in Zambia (ザンビアの人間-家畜-野生動物共存領域におけるアフリカトリパノソーマ症およびピロプラズマ症の分子疫学研究) 主査：教授 東 秀明
博士（獣医学）	みね じゅんき 峯 淳貴	Studies on the phylogenetics and pathogenicity of swine and avian influenza viruses (豚及び鳥インフルエンザウイルスの遺伝的動態と病原性に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
博士（文学）	しらい じゅん 白井 純	キリシタン版の日本語と印刷術についての研究 主査：教授 加藤 重広

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 教育研究評議会（令和3年9月8日）

議 題・総長補佐数の変更について

- ・クロスアポイントメント制度の改正について
- ・北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）における学生の所属変更について
- ・研究生の受入れに係る運用の弾力化について
- ・諸規則の一部改正について

報告事項・学生の懲戒について

- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム（科学技術振興機構の所管）の採択について
  - ・次世代クボタ，株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメントとの連携協定について
  - ・令和3年度運営費交付金における評価結果について
  - ・令和4年度概算要求（財務省要求）について
  - ・産業創出講座等の設置（更新）について
  - ・SCSK北海道株式会社との連携協定締結について
  - ・寄附講座等の更新について
  - ・教育関係共同利用拠点の認定について
- 

### 経営協議会（令和3年9月21日）

議 題・令和3年国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況の報告について

報告事項・国立大学法人の機能強化に向けた国による支援の充実を求める声明について

- ・令和4年度概算要求（財務省要求）について
- ・「北海道大学 財務報告書2021」について

そ の 他・令和3年人事院給与勧告について

意見交換・北海道大学の今後の国際化について

---

### 役員会（令和3年9月27日）

議 案・総長補佐数の変更について

- ・クロスアポイントメント制度の改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）における学生の所属変更について
- ・研究生の受入れに係る運用の弾力化について
- ・諸規則の一部改正について
- ・令和3年度内部統制モニタリングテーマ候補について
- ・職員宿舎（平岸住宅，南新川宿舎）の廃止について

報告事項・令和2事業年度財務諸表の承認について

---

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程

(令和3年9月3日海大達第124号)

### 国立大学法人北海道大学契約監視委員会規程

(令和3年9月3日海大達第125号)

本学における契約業務の適切な実施及び相互牽制を確保するため、本学に契約監視委員会を設置することに伴い、所要の改正及び定めを行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程

(令和3年9月25日海大達第126号)

### 国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(令和3年9月25日海大達第127号)

北大インターナショナルハウス北8条東の賃貸借契約の終了に伴う外国人留学生に提供できる居室の減数並びに北大インターナショナルハウス北8条(以下「IH北8条」という。)の1号棟、3号棟及び4号棟の入居率の低迷への対策のため、IH北8条の1号棟、3号棟及び4号棟の全室を単身2名で1室を利用できるシェアハウスに変更したこと及びIH北8条1号棟から4号棟までの単身室を夫婦室又は家族室として入居できることとするに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和3年10月1日海大達第128号)

本学が取り組むべき喫緊の課題に機動的に対応し、戦略的な大学運営を推進するとともに、総長の意思決定をサポートする体制の強化を図るため、総長補佐を増員することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第129号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の登録及び登録内容の修正を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第130号)

### 北海道大学通則の一部を改正する規則

(令和3年10月1日海大達第131号)

北海道大学短期留学プログラムのより効率的な運営を図るため、同プログラムにより受け入れる留学生の所属を各学部から高等教育推進機構に変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(令和3年10月1日海大達第132号)

### 北海道大学研究生規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第133号)

学院又は教育部への入学を前提として研究生を受け入れる場合に、一貫性のある教育指導体制を構築するため、学院及び教育部において研究生の受入れを可能とすることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第134号)

北海道大学短期留学プログラムのより効率的な運営を図るため、同プログラムにより受け入れる留学生の所属を各学部から高等教育推進機構に変更すること並びに受入れ人数及び修了要件の規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

北海道大学における特別聴講学生及び特別研究学生に係る授業料等の不徴収に関する規程の一部を改正する規程  
(令和3年10月1日海大達第135号)

北海道大学通則の一部改正に伴い、引用条項に係る所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年10月1日海大達第136号)

国立大学法人北海道大学職員の早期退職に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第138号)

国立大学法人北海道大学年俸制教員の業績評価の実施に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第139号)

国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第141号)

国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第142号)

国立大学法人等人事給与マネジメント改革に関するガイドライン(平成31年2月25日文科科学省)、統合イノベーション戦略(平成30年6月15日閣議決定)等の国の施策を踏まえ、令和4年4月1日付けで教員に新たな年俸制を導入することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年10月1日海大達第137号)

時間外労働で対応している獣医学研究院附属動物病院に入院している動物に対する診療開始前の事前処置を所定の勤務時間に行えるようにするため、1箇月単位の変形労働時間制が適用される同病院に勤務する獣医師の勤務時間を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第140号)

各部局等において、クロスアポイントメント適用に係る相手方機関との協議等を、早期かつ円滑に実施できるようにするため、当該適用の承認又は不承認の決定までの迅速化を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第143号)

本学のオープンファシリティについて、設備の登録及び登録内容の修正を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第144号)

本学が大学連携研究設備ネットワークにより相互利用に供する設備の登録内容を修正することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第145号)

電子科学研究所連携研究部門の研究分野の廃止及び名称変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第146号)

電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センターの研究分野を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程

(令和3年10月1日海大達第147号)

遺伝子病制御研究所病態研究部門及び疾患制御研究部門に置く研究分野を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## ■表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
3.9.27	駐日インド大使館 Usha Dixit科学技術参事官	両国の交流に関する懇談



Usha Dixit 駐日インド大使館科学技術参事官（中央）

（国際部国際連携課）

## ■ 人事

令和3年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【部局長・施設長等】</b> 大学院地球環境科学研究院長 大学院環境科学院長 (期間：令和5年9月30日まで) 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 (期間：令和5年9月30日まで)	谷 本 陽 一  松 尾 保 孝	大学院地球環境科学研究院教授  電子科学研究所教授
<b>【副研究科長・副研究院長等】</b> 大学院地球環境科学研究院副研究院長 (期間：令和5年9月30日まで)	小 西 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
<b>【教授】</b> 大学院理学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院医学研究院教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授  スラブ・ユーラシア研究センター教授	和 多 和 宏 關 あゆみ 清 水 裕 樹 上 田 佳 代 黒 木 英 充  村 上 勇 介	大学院理学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 東北大学准教授 京都大学准教授 東京外国語大学教授 (東京外国語大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用) 京都大学教授 (京都大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)



## 新任部局長等紹介

令和3年10月1日付

### 地球環境科学研究院長・環境科学院長に



たにもと よういち  
谷本 陽一 教授

令和3年9月30日限りで大原 雅地球環境科学研究院長・環境科学院長が任期満了となり、その後任として谷本陽一教授が発令されました。

任期は、令和5年9月30日までです。

### 略 歴

生 年 月 日 昭和41年9月11日  
 平成元年3月 東北大学理学部卒業  
 平成3年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程前期2年の課程修了  
 平成6年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程後期3年の課程修了  
 博士（理学）（東北大学）  
 平成6年4月 } 日本学術振興会特別研究員  
 平成7年3月 }  
 平成7年4月 } 日本学術振興会海外特別研究員  
 平成8年9月 }  
 平成8年10月 } 東京都立大学大学院理学研究科助手  
 平成10年9月 }  
 平成10年10月 } 海洋科学技術センター地球フロンティア研究システムサブリーダー  
 平成12年3月 }  
 平成12年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授  
 平成17年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究院助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授  
 平成25年3月 北海道大学大学院地球環境科学研究院教授

新任教授紹介

令和3年10月1日付



理学研究院教授に

わだ かずひろ  
**和多 和宏 氏**

生物科学部門  
行動神経生物学分野

生年月日

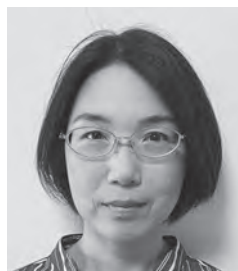
昭和47年 9月14日

最終学歴

東京医科歯科大学大学院医学系研究科博士課程単位修得退学（平成15年3月）  
博士（医学）（東京医科歯科大学）

専門分野

分子神経行動学



教育学研究院教授に

せき  
**関 あゆみ 氏**

最終学歴

鳥取大学大学院医学系研究科博士課程修了（平成15年3月）  
博士（医学）（鳥取大学）

専門分野

学習神経心理学



工学研究院教授に

しみず ゆうき  
**清水 裕樹 氏**

機械・宇宙航空工学部門

生年月日

昭和51年12月31日

最終学歴

名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成21年1月）  
博士（工学）（名古屋大学）

専門分野

精密計測・制御，加工学，生産工学，設計工学



医学研究院教授に

うへだ かよ  
**上田 佳代 氏**

社会医学分野衛生学教室

生年月日

昭和44年 9月30日

最終学歴

山口大学大学院医学研究科博士課程修了（平成15年1月）  
医学博士（山口大学）

専門分野

環境保健，環境疫学



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

くろき ひでみつ  
**黒木 英充 氏**

地域比較部門

生年月日

昭和36年 6月18日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修了（昭和62年3月）  
学術修士（東京大学）

専門分野

中東地域研究



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

むらかみ ゆうすけ  
**村上 勇介 氏**

地域比較部門

生年月日

昭和39年 3月18日

最終学歴

筑波大学大学院修士課程地域研究科ラテンアメリカコース修了（平成3年3月）  
博士（政治学）（筑波大学）

専門分野

地域間比較研究

## 編集メモ

### ●ノーベル化学賞受賞決定に伴う記者会見とインタビューを実施

化学反応創成研究拠点の主任研究者で特任教授のリスト・ベンジャミン氏に対し、2021年ノーベル化学賞受賞が決定しました。本学での記者会見に列席された辻 信

弥特任助教は、リスト特任教授の受賞を「本当の家族のことにように嬉しい」と語り、自身のアカデミック・ファーザーであるリスト特任教授を慕う姿が印象的でした。



記者会見の様子



リスト特任教授の話を傾聴する辻特任助教

### ●跨道橋の撤去が行われました

札幌キャンパスの農学部地区と札幌研究林の実験苗畑を繋ぐ跨道橋の撤去作業の様子です。両端のアーチ部分がすっかり取り払われ、残すは石山通の夜間車両通行止

めを待つばかり。跨道橋の撤去に伴って、市民の跨道橋の思い出を集める「さよなら、アノハシ」などの取り組みが始まっています。



インターナショナルハウス側の工事の様子



農学部側の工事の様子

## 裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は跨道橋です。この橋は昭和47年に設置されてから約50年間使用され、老朽化により10月25日に撤去されました。跨道橋の在りし日を偲ぶ「アノオンシツ」プロジェクトにも、ぜひご期待ください。

## キャンパス風景 19 跨道橋（北7条西10丁目）



北大時報 ⑩ No.811 令和3年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>